

大学保健体育実技に対する学生の意識調査

—平成3年度 体育実技Ⅰ、体育実技Ⅱ、
短期大学の体育実技受講生を対象として—

牧野 茂・江口 淳一

I. 緒 言

平成3年3月、大学審議会『大学教育の方向』を、(1)特色のあるカリキュラムの編成と柔軟かつ充実した教育組織の設計、(2)学生の充実、(3)一般教育と専門教育の改善、(4)多様な学習機会の提供をあげ、『改善の方策』として「大学設置基準の大綱化」、「大学評価システム」、「財政措置」についての提言という答申を¹⁾発表した。それを受けた文部省は、平成3年6月、大学設置基準の²⁾改正を行ったことは周知のことである。このことは戦後新制大学の発足以来の改正と^{3) 4) 14)}評され、様々な議論を呼んでいる。この改正の結果、今後大学教育のカリキュラムは、従来の特徴であった専門教育と一般教養教育という区分を取り払い、各大学がそれぞれの教育理念を具体化すべく自由に編成できるようになったのである。^{3) 5)}このような状況下において大学保健体育も従来からの必修科目としてのワクが取り払われ他の一般教養科目と同様に、必修科目とするか選択科目とするかは各大学の自主的判断に委ねられることになった。この様な経緯をもとに、各大学においても保健体育科目を含める一般教養科目の取扱いについては様々な検討がなされている最中であろう。^{6) 7)}大学体育連合、関東支部のアンケート調査によれば、⁸⁾平成4年6月現在で、保健体育科目になんらかの改革があったと答えた大学は、アンケート回答89校中(国立私立総合・単科大学を含む)52校であり、初めて大学体育を見直す時期に来ているといえよう。

一方、一般教養教育、専門教育のワクが取り除かれ自由度を増したカリキュラムを編成することによって、大学の水準の低下、大学らしからぬ大学ができるのではないかという懸念が指摘された。³⁾これに対して今回の改正では大学の学習の充実をはかるために大学の自己評価、自己点検が努力義務に含められたことも^{1) 9)}大きな視点の一つである。

大学体育改革委員会自己評価小委員会によれば、⁹⁾大学が一つの自主的、自律的な組織体である以上、その機能や活動が有効に遂行されているのかの検証が必要で、すなわち、まず「計画・立案」(Plan)としての目的、目標の設定があり、これを実現するために具体的な「実行—実施」(Do)がなされる。そしてその結果を「評価、点検」(See)し、新たな「計画に向けてフィードバックをする作業である。そして大学が組織として自律性を持ち真に自由であるためには、評価は他者によってなされるのではなく、当事者本人による自己評価としてその意義があるとしている。つまりこの意味では「自己評価」の目的がself study(自己研鑽、自己改革)として

考えられ、さらに広い意味でファカルティ・ディベロップメント (Faculty Development: FD: 大学教授団開発) の一環として位置づけられるのである。つまり、教授団自らの主体性によって、大学のシステム全体の改革につなげる運動として取り組まなければならないのである¹⁰⁾。

以上のことを考えれば今回の改革の方向の中心課題は、教師中心の大学論から学生中心の大学論への意識改革であると言えよう。すなわち授業は教師中心の知識伝達の間から学生中心の知的創造の間への変革を迫られているのである^{9) 15)}。

当保健体育部でもこのような背景のものとカリキュラム委員会を中心に様々な論議がかわされて来た。平成5年より始まるであろう18歳人口の減少に伴い、"大学冬の時代"が指摘される中、駒澤大学保健体育部としていかに大学改革に取り組むべきか、今こそ、我々の授業を見つめ直し、土台を固め直す時ではないか。このような見地に立って、我々は自己評価、自己点検の意味も含め、保健体育実技に関する学生の意識、意見、要望、感想、評価などの基礎的な資料を得るため、アンケート調査を実施し、参考となる資料を得たのでここにその結果について報告する。

(ただし、ここに報告する結果は、我々自身が我々を評価、点検する為に行なわれ、今後にフィードバックすることに1つの大きな目的がある。)

II. 方 法

本学における平成3年度後期、体育実技Ⅰ(学部1年及び再履修クラス)、体育実技Ⅱ(全学部2年生以上)の本校授業、集中授業、シーズンコース(スキー実習)、短期大学1年次生を対象にアンケート調査を行った。

実施期間は、体育実技Ⅰの学部1年次生及び再履修クラス、体育実技Ⅱの本校授業、短期大学1年次生、以上については、平成3年11月25日(月)～12月6日(金)の期間で行い体育実技Ⅱのうち集中授業(全学部2年次以上)においては、平成3年12月24日(火)、シーズンコース(スキー実習)においては、平成4年2月20日(木)にそれぞれ行った。

アンケートの調査内容は付録1のごとくA4版の2枚の質問紙よりなるものであった。回答は選択式と記述式があった。なお、このアンケートは、横浜市立大で行われたものを参考¹¹⁾に作成された。アンケートは上記の期間の保健体育実技の授業時間内に担当の教員がアンケート調査の目的と主旨についてよく説明し、無記名であることその他、記入上の注意点など口頭で説明した。更にアンケートに対して協力を要請し、アンケートを配布した。アンケートの回収は、時間内に行なわれた。回収率は同一時間内に配布し、回収したこともあり100%であり、有効回答者数は表1のとうりである。ただし、アンケート調査当日欠席した者についてはアンケートの調査対象から除外した。

表1 回答者数

1. 体育実技 I

仏 教 学 部	146(22)	1796(333)
文 学 部	510(195)	
経 済 学 部	362(24)	
法 学 部	481(72)	
経 営 学 部	236(19)	
再履習クラス(全学部)	61(1)	

※ () 内、女子内数

2. 体育実技 II (全学部 2 年以上) ※後期のみ

本 校 授 業	582(71)	913(161)
集 中 授 業	231(44)	
シ ー ズ ン ・ コ ー ス	100(46)	

3. 短期大学

国 文 科	166(166)	376(348)
英 文 科	162(162)	
放 射 線 科	48(20)	

有意差検定は χ^2 検定で行い、全ての集計処理は NEC9801VX パーソナルコンピュータで行なわれた。

III. 駒澤大学の保健体育実技

アンケートの結果と考察に入る前に本学の保健体育実技の内容を簡単に説明しておく必要があると考えられる。

1) 体育実技 I

1 年次、前期・後期とも各学部指定された授業時間表に従い、表 2 の「体育実技 I 開校種目」に含まれている数種目の中から種目を選択し、受講しなければならない。ただし前期と後

表 2 体育実技 I 開講種目 (1 年次、玉川校舎で実施)

仏教学部 (禅・仏)、文学部 (国・英・地・歴・社)			経済学部 (経済・商)				
	月・1(禅・仏・国)	月・2(英・地)	月・3(歴・社)		火・1(商)	火・2(経済)	火・3(経済)
種 目	ハンドボール	体 操	ハンドボール	種 目	体 操	空 手	体 操
	卓 球	陸 上	卓 球		空 手	テ ニ ス	ゴ ル フ
	陸 上	室内球技	室内球技		卓 球	ハンドボール	テ ニ ス
	室内球技	剣 道	剣 道		テ ニ ス	ソフトボール	ソフトボール
	剣 道	ソフトボール	ソフトボール		柔 道	卓 球	
	ソフトボール	テ ニ ス	テ ニ ス		ソフトボール		
	テ ニ ス	トレーニング	トレーニング		柔 道		
	トレーニング						

法学部 (法律・政治)			経営学部		
	水・1(政治)	水・2(法律)	水・3(法律)	木・1(経営)	木・3(経営)
種 目	空 手	体 操	ゴ ル フ	種 目	ハンドボール
	テ ニ ス	ジョギング	テ ニ ス		陸 上
	室内球技	ゴ ル フ	卓 球		陸 上
	相 撲	太 極 拳	サ ッ カ ー		サ ッ カ ー
	ソフトボール	トレーニング	トレーニング		柔 道
	ジョギング				柔 道
トレーニング			トレーニング	トレーニング	

期は同一種目を選択することはできない。種目の選択については、当年度第1回目の授業時に前・後期種目選択の為のオリエンテーションを実施し種目を決定することになっている。しかし、種目毎に人数ワクがあるため、例えば前期希望の種目を選択でなかった者については、後期に優先的にその種目を選択できるような配慮は行なっている。1時限は90分授業で行なわれ、単位は通年で1単位、前後期の配点は1：1である。

尚、体育実技Ⅰは全て玉川グラウンド（世田谷区宇奈根1-1-1）で行なわれ、1年生は体育実技、宗教学、語学を玉川グラウンドのある玉川校舎で受講することになっている。

2) 体育実技Ⅰ再履修クラス

1年生で体育実技Ⅰの単位が確認されなかった者は、2年次以上で再履修をしなければならない。再履修クラスは、他の授業との関係上本校（世田谷区駒沢1-23-1）に設定されている。平成3年度再履修クラスに時限及び設定種目は表3の通りである。単位の認定は、体育実技Ⅰと同様通年で1単位である。

表3 再履修クラス開講種目（全学部）

	月・1	火・1	水・1
種	室内球技	太極拳	室内球技
目	室内球技	室内球技	室内球技

3) 体育実技Ⅱ

2年生の前期または後期に次のA、B、Cの体育実技の中から1つを選んで履修し単位を修得しなければならない。

全ての講座ともに学部、学科の指定はなく全学部フリー選択制である。全て前期または後期の半期で1単位とする。

コースと種目の選択に関しては、当該年度始めのオリエンテーション期間中、指定された期日以内に受講届を提出し種目を選択することになっている。しかし、各コース、各種目ともに定員があり、定員になり次第受付を終了する。

A. 本校授業コース

表4の中から受講可能な1時間1種目を選択する。定員は各種目ともに35名程度である。

B. シーズン・コース（スキー実習）

実施期間は例年2月（平成3年度は、平成4年2月17日～21日）に4泊5日のスキー実習の型式で行なう。場所は湯沢パークスキー場（新潟県魚沼郡）、定員は110名である。シーズンコースに限り参加費用¥34,000（平成3年度の場合）が必要となる。

C. 集中授業コース

集中授業コースは、前期が夏季休業中（平成3年の場合、7月21日～25日）、後期が冬季休業中（12月20日～24日）の5日間、午前2時間（AM10：00～12：00）午後2時間半（PM13：

00～15：30)、以下の種目(表5)を集中して行うコースである。実施場所は、剣道及び太極拳に限り本校体育館で行うが、それ以外は、玉川グラウンドで行っている。定員は各種目ともに35名である。

表4 体育実技II時間表

曜日 時限	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1時限				バドミントン 卓球	
2時限	卓球 バドミントン		B. テニス 卓球 バドミントン	バドミントン 卓球	
3時限	エアロビクス 卓球 バドミントン	バドミントン 卓球 太極拳	B. テニス 卓球 バドミントン	バドミントン 卓球	卓球 バドミントン
4時限	卓球 バドミントン				

表5 開講種目

	前期	後期
種目	テニス ゴルフ エアロビクス 剣道 卓球 バドミントン ソフトボール	テニス ゴルフ 空手 太極拳 卓球 バドミントン ソフトボール

4) 短期大学の体育実技

表6のごとく学科毎に2～3種目が開講されている。通年で1単位を認定するが、前・後期で同一種目を選択することはできない。種目の選択は当該年度第1回目の授業時に決定するが各種目ともに定員が決まっているので、前期、希望種目をとれなかった場合には後期の種目選択の際、優先権を与えるように配慮している。

表6 開講種目

	火・2(英)	火・4(英)	金・1(国)	金・2(国)	金・3(放)
種目	室内球技 エアロビクス 剣道	室内球技 エアロビクス 剣道	剣道 室内球技 室内球技	剣道 室内球技 室内球技	球技 総合体育

IV. 調査結果及び考察

今回の報告では、体育実技I、体育実技II短期大学の体育実技についてのアンケート調査結果をそれぞれの総数で比較したものについて報告する。人数の内訳については表1に示す通りであるが、目安として、体育実技Iについては、1年次生全員と再履修者、体育実技IIについ

ては、2年次生の約半数、短期大学生については1年次生全員の調査と考えていただいてもよいと思う。これは、後期授業の終りにアンケートを実施した為、体育実技IIの前期受講者は、その対象にならなかった為である。

また、体育実技Iの学部別比較、体育実技IIのコース別比較、短期大学の専攻科別比較は、結果と考察の後に資料として載せ、参考とすることにする。

1. 保健体育実技が必修科目であることに対してどう思うか

(1)保健体育実技が必修科目であることについて①賛成である。②反対である。③どちらとも言えないの3段階で1つを選ばせた(図1-(1))。体育実技I、II、短大の体育実技ともに「①賛成である。」と回答した割合が最も高く、それぞれ58.9%、67.9%、79.3%であった。次に「③どちらとも言えない」と答えた割合がそれぞれ27.5%、21.4%、20.2%、最も割合の少なかったのが、②必修に反対の13.5%、10.6%、5.8%であった。野坂の報告¹¹⁾した横浜市立大学における同じ質問においても、1年生で61%、2年生で65%の者が、体育実技必修に賛成しており、実技の内容等単純な比較はむずかしいが、高い評価を受けているといえよう。

(2)必修科目から選択科目に変わることに関して賛成か、反対かを選択させたところ(図1-(2))。体育実技I、II、短大ともに「③どちらとも言えない」と回答した者の割合が最も高く、いずれも40%以上であった。次いで選択制賛成、選択制反対の順であった。特に体育実技Iでは選択制賛成が反対を10%近く上回っており、体育実技II、短大の差の5%以内と比べると選択制賛成が若干多かった。

「どちらとも言えない」と回答した学生が多かったことについては、このアンケートを実施した当時、どんな内容の講座や種目が設定されるか、また単位の取り扱い方法など具体的な例が示されておらず、学生に質問者側からの統一した見解が伝えられなかったことが一つの要因として考えられる。この点に関しては再度調査の必要がある。賛成、反対の分析については、質問項目2で述べることにする。

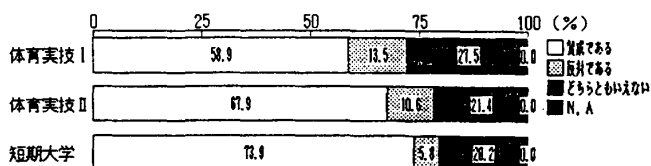
(3)本学の保健体育実技の内容について、①必修に値する。②必修に値しない。③どちらとも言えない。のいずれかを選択させたところ、体育実技Iを除いては、50%以上の者が「必修に値すると回答した(図1-(3))。しかし、体育実技Iでは、「どちらとも言えない」と回答した学生が最も多く47.7%で、「必修に値する」と答えた39.3%を上回った。また「必修に値しない」と回答した学生も12.5%存在した。この結果は、当保健体育部としても厳粛に受け止めなければならないと思われる。

この要因として考えられることは、まず受講生の立場を分析すると、前述のごとく、このアンケート調査は後期の授業の最終週に行なわれた。駒澤大学の体育実技受講生の例年の特色として、まず体育実技Iでは、学生が前期に第1希望の種目を受講することが多く後期においては、第2希望かそれ以外の種目を受講する機会が多いこと。更に、季節上、秋から冬に向けて

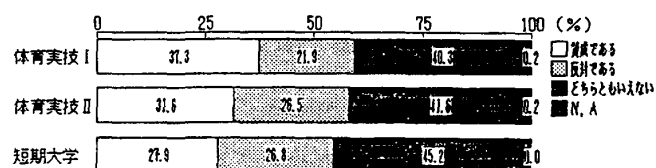
総数比較 [体育実技 I・体育実技 II・短期大学]

図1 保健体育実技が必修科目であることに対してどう思いますか。

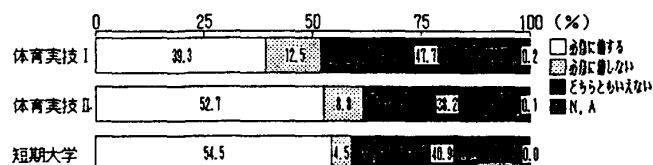
(1) 保健体育実技が必修科目であることには
 ①賛成である ②反対である ③どちらともいえない



(2) 必修科目から選択科目に変わることは
 ①賛成である ②反対である ③どちらともいえない



(3) 本学の保健体育実技の内容は
 ①必修に値する ②必修に値しない ③どちらともいえない

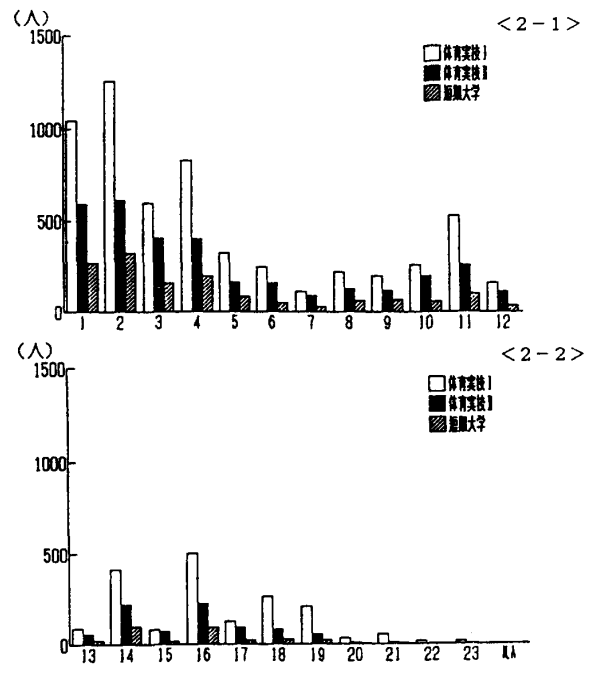
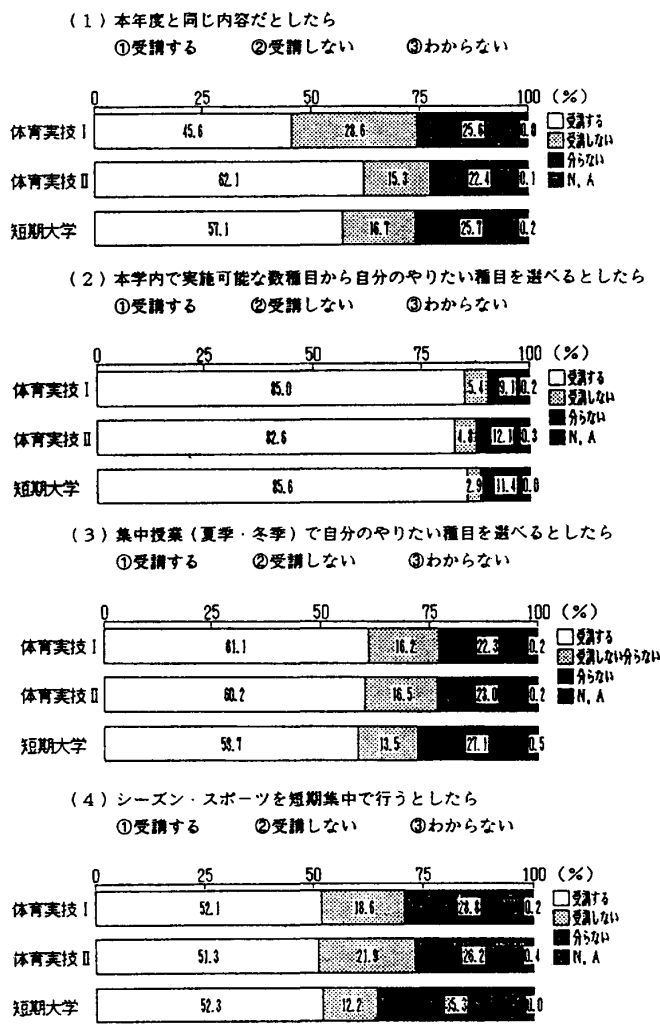


の授業であること。玉川校舎で体育実技を受けること。これらの点がマイナスファクターとして考えられよう。一方体育実技 II では、ほとんどの学生が希望通りの種目を自分の責任で選択すること、自分の都合に合わせてコースや期間を選択できることなど必修に対する評価のプラスファクターになったと考えられる。更に短大においては、1クラスの人数が少なく種目の選択が希望通りになり安いことがプラス要因として考えられよう。また教員側の立場より分析すると、この結果に対する反省材料は多いように思われる。なぜなら、授業の印象の善し悪しは、個々の教員の努力によるところが大きく「必修に値しない」と学生に感じさせるのはやはり内容や、行い方に問題があると考えられるべきであろう。学生が望む必修としての体育実技がいかなるものなのかは、現時点で判断することはできないが、より質の高い授業を展開すべく努力すること惜しんではならないと考える。また、施設の充実、優秀な指導陣の確保などのハード面の強化も考えていかななくてはならない課題であろう。

2. 保健体育実技の選択科目であると想定した場合に

(1) 「本年度と同じ内容だとしたら」という質問で (図2-(1))、①受講する。②受講しない。③わからない。を選択させたところ。「受講する」と回答した割合は、体育実技 I で45.6%、体育実技 II で62.1%、短大で57.1%であった。前述のごとく、体育実技 I、II、短大ではそれぞれ実施形態が異なるが、各々半数近い者が「受講する」と答えたことになる。ただ「体育実技

図2 保健体育実技が選択科目であると想定した場合に 図3 大学における保健体育実技はどんな時間でしたか。(複数回答)



I」については、「受講しない」と答えた者が多く、何らかの対策の必要性を示唆する結果と言えよう。

そこで、その改善の方法についての対策を学生に質問したのが次の図2-(2)～図2-(4)である。比較しても明らかなように、体育実技Ⅰ、Ⅱ、短大ともに、ほとんど同様の結果が得られた。これらの質問の結果を要約すれば、本校において、自分の好きな種目を選択できるのであれば、選択制になっても80%以上の学生が体育実技を受講する可能性があることが考えられるということである。更に集中授業や、シーズンコースであったとしても50%以上の者が体育実技を選択すると答えており、学生の運動に対する欲求は、非常に高いと言い変えることができよう。ただ、質問1でも述べた様に、現時点で本校の施設には限界があり、ハード面での改善は困難な状況にある。つまり、本校校舎で学生のニーズに合せた種目やコースを設定するには限界がある。

そこで、集中コースの充実等、ソフト面での対策を早急に考える必要があると思われる。

3. 大学における保健体育実技はどんな時間であったか

大学における体育実技が自分にとってどんな時間であったかを表7に示すごとく、1～23の中からあてはまるもの全てを選択する方法で質問したところ、体育実技Ⅰ、体育実技Ⅱ、短大の体育実技ともに、2.「運動不足を解消する時間」と感じている学生が最も多かった。また1.「気分転換、解放感を味わう時間」、4.「仲間との交流、ふれあいの機会」、3.「運動の楽しさ、爽快感を味わえる機会」、11.「友人を見つけられる機会」、14.「体力、運動能力を高める機会」、などの項目も比較的多くの学生が選択したものである。これらの項目は、保健体育実技の実施目的の1つであると考えても良く、ある意味では、実技の目的は達成されているものと言えよう。

一方、18.「単位を取る為にしかたなく出席した時間」、19.「あってもなくてもたいして意味を持たない時間」への回答も10%前後あり、無視できない。

私達の体育実技の実施目的には、このように「体育ぎらい」の学生に、運動に親しむ機会を

表7 大学における保健体育実技はどんな時間でしたか。(複数回答)

%

項 目	実技Ⅰ	実技Ⅱ	短 大
1. 気分転換、解放感を味わう時間	57.9	64.4	70.5
2. 運動不足を解消する時間	69.8	67.0	85.4
3. 運動の楽しさ、爽快感を味わえる機会	33.1	43.8	42.0
4. 仲間との交流、ふれあいの機会	45.9	43.2	52.7
5. 新しい体験ができる時間	17.9	18.2	22.3
6. 運動のしかた、技能を学ぶ時間	13.7	17.6	13.8
7. マナー、ルール、態度を学ぶ時間	6.2	9.6	7.4
8. 積極的に参加する楽しみな時間	12.1	13.9	17.3
9. 連帯感、協力の楽しさを知る機会	11.0	12.9	18.1
10. スポーツ技能を向上させる機会	14.2	21.6	14.4
11. 友人を見つけられる機会	29.3	28.4	27.4
12. スポーツ意識、必要性を学ぶ機会	8.7	12.2	10.1
13. 生涯スポーツの基礎をつくる機会	4.9	6.0	6.4
14. 体力、運動能力を高める時間	22.9	23.9	26.3
15. 課題の達成、成就の喜びを得る時間	4.7	8.3	4.8
16. 単なる気晴らし、息抜き程度の時間	27.6	24.6	25.3
17. 敢えて努力したり、挑戦する時間	7.1	10.1	6.6
18. 単位を取るために仕方なく出席したいやな時間	14.5	8.9	7.4
19. あってもなくても、たいして意味を持たないで出席した時間	11.5	6.1	6.6
20. リーダーシップを発揮して得意になってスポーツをする時間	1.9	1.4	1.9
21. 運動がきらいで劣等感を味わういやな時間	3.2	1.4	2.7
22. 仲間と運動するのが億劫で退屈な時間	1.0	0.2	1.3
23. その他	1.7	0.9	1.1

与え、生涯を通して運動を実践してほしいという願いもある。もし仮に体育実技が選択制になった場合、運動のきれいな学生は、あえて体育実技を選択することはないであろう。新しい大学設置基準²⁾では、全ての教科の必修枠がはずされ、保健体育についても他教科同様、必修、選択どちらにするかは、各大学に任されることになった。しかし、同時に大学生活4年間全体を通して心身の健康の保持増進に努めるよう教育的配慮することも望まれているのである。¹⁾ 大学体育の必修制、選択制を判断する場合には以上のことも踏まえ、他教科との関連の中で検討する必要があると思われる。

一方、アンケートの結果から教員の努力目標として、スポーツのルール、マナー、態度であるとか、スポーツの意識、必要性、生涯スポーツの基礎と言った項目の評価が低かったことは、今後の課題として教員が受け止めなければならないであろう。(図3は表7を実数で表したものである)

4. 本学の保健体育実技についてどう思うか。

(1)種目の設定のしかたについてどう思うかという質問では、体育実技Iで40.0%、体育実技IIで18.3%、短大で48.6%が「良い」と回答した。「悪い」と回答した学生は体育実技Iで最も多かった。(図4-(1)) 体育実技Iは、学部ごとに種目が決められており、全ての学部で同じ種目が設定されることはない。また、前後期で種目を変えるため、希望種目を受講できない可能性もあることなどの条件がこの結果に反映されていると言えよう。この結果を裏付ける資料が、同じ質問項目における学部ごとの比較によって示されている。本学において特に人気のある種目と考えられているテニス、ゴルフ、室内球技のない経営学部で種目設定に不満があること、また改善策に対する意見で「種目を増す」、「学部学科間の差をなくす」などの意見が多く見られたことなど、今後早急に対応すべき課題として取り上げることができよう。

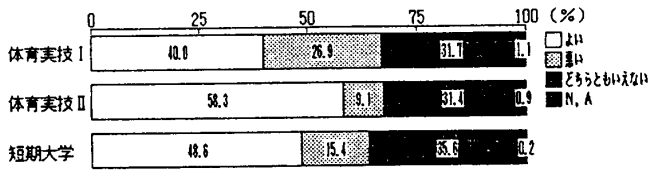
(2)希望の種目、コースを自分の意志で選択できる体育実技IIでは「良い」と回答した学生が50.0%以上であった。一方、体育実技Iは若干不満が多いようである。不満の内容は資料の中の同質問の改善策に反映されており、「人数制限をなくす」、「希望種目を受講できるようにする」という意見が多い。このことは当保健体育部でも毎年議論が集中することであるが、教員数、施設の状態(コート面の数と人数の関係も含め)をただちに改善することは困難で、他大学などの方法を参考にし、改善の方向で前向きに取り組む配慮が必要であろう。また、オリエンテーション時に、学生に現状を理解してもらうような説明を充分に行い、納得してもらってもみらいことも忘れてはならないであろう。

(3)種目の内容を、楽しい、好き、充実している。満足しているなどを「好印象」、つまらない、きれいな、退屈である、不満足であるを「悪印象」として前期、後期についてその印象を質問したところ(図4-(3))60%以上の学生が「好印象」と回答し、授業を受けた感想としては高い評価を受けてると言えよう。

図4 本学の保健体育実技についてどう思いますか。

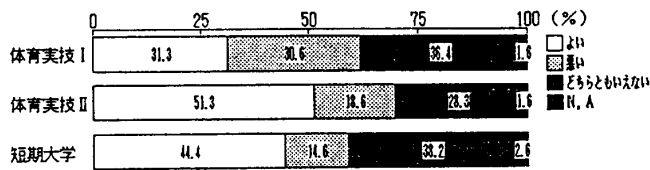
(1) 種目の設定のしかたについてどう思いますか。

①よい ②悪い ③どちらともいえない



(2) 種目の決定のしかたについてどう思いますか。

①よい ②悪い ③どちらともいえない



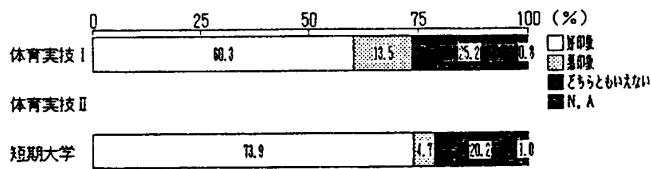
(3) 種目の内容はどうか?

[好印象]・楽しい、好き、充実している、満足できる、など

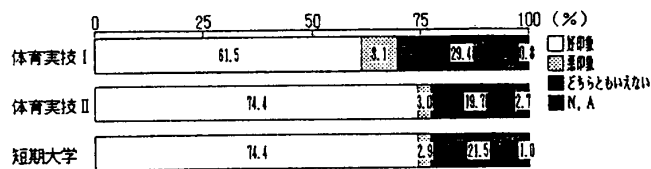
[悪印象]・つまらない、嫌い、退屈である、不満足である、など

①好印象 ②悪印象 ③どちらともいえない

<前期>



<後期>

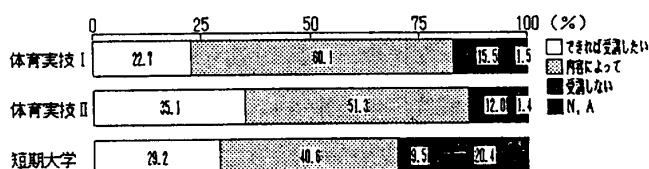


5. 3年次以降にも保健体育実技が受講できるとしたらどうしますか

(短大においては2年次において)

上記の質問において①できれば受講したい、②内容によっては受講するかもしれない、③受講しないの3つの選択をしたところ(図5)「受講しない」と回答した者は、体育実技 Iで15.5%、体育実技 IIで12.0%、短大で9.5%とほとんどの学生が「できれば受講したい」「内容によっては受講するかもしれない」と答え、多くの学生が体を動かせる時間と場所を望んでいると図5 3年次以降にも保健体育実技が受講できるとしたらどうしますか。

①できれば受講したい ②内容によっては受講するかもしれない
③受講しない



考えることができよう。つまり学生のニーズに合わせ、4年間を通して参加できるような何らかの運動プログラムを用意する必要もあるのではないだろうか。

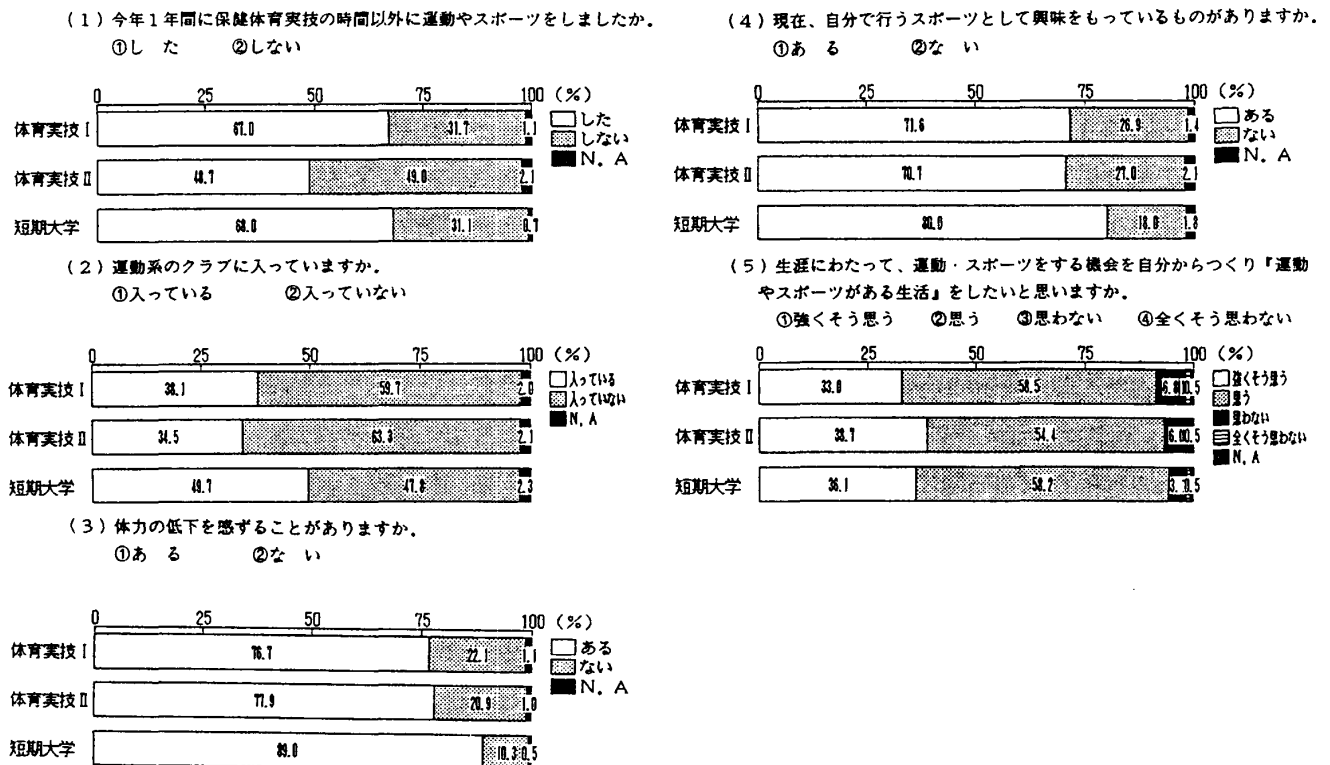
6. 日常でのスポーツ活動について答えよ

(1)今年1年間に保健体育実技の時間以外に運動スポーツをしたかの項目では(図6-(1))、1年次生は、約70%の学生が「した」と答え、2年生では、48.7%の学生が「した」と回答した。

(2)運動系クラブへの所属状況を聞くと、(図6-(2))、クラブ、サークルへ所属している学生は、学部1年生で38%、2年生で34.5%、短大生で49.7%、1年次に何らかの運動系クラブに所属した者は、少なくとも1~2年の間はクラブ活動をやる者は少なく、継続して運動していることが推測できよう。ここで問題になるのは、質問の6-(1)、6-(2)を総合的に判断した場合、{6-(1)の割合}-{6-(2)の割合}=クラブ入部者以外で体育実技以外の何らかのスポーツを行なった者の割合と考えられることである。1年次、クラブ入部者以外で体育実技の時間以外に何らかの運動をした者は、全体の約30%近くいた者が、2年次には14%に減少してしまう。つまり、クラブやサークルに所属せず、体育実技の時間もなくなれば、必然的に学生は運動から遠ざかってしまう傾向にあることが示唆されているのである。

また、駒澤大学では、テニスサークルが100以上もあると言われ、学生がさかんにスポーツに親しんでいるかのように受け止められている。しかし、実際に運動系サークルに所属している者は、40%以下で、上級生になれば、徐々にサークル活動から離れるとすれば全学では30%程

図6 日常での運動習慣、スポーツ活動について答え下さい。



度しか運動系クラブに所属していないことになるのである。

大学審議会では、部活やサークル活動などの課外活動を体育実技の単位として認めてはどうかという案を提出したらしいが、³⁾本学においては、一抹の不安が残る。なぜなら、課外活動で実技の単位を認める方向になったとした場合に、そのクラブの活動状況の判定、個人のクラブへの参加状況など、むずかしい問題が多い、資料に示されるように、この1年間で習慣的にスポーツをした者で、週1回以上何かのスポーツをした者は、約3000名のアンケート対象者中、わずか600名程度なのである。

(3)体力の低下を感ずることがあるかという質問には、80%~90%近くの学生が「ある」と回答し(図6-(3))。特に「走った時」や、「階段の昇り降り」等普段の生活の上でも体力不足を感じる学生が多い。

一方、(4)現在自分で行うスポーツとして興味を持っているものがあるかを問う(図6-(4))と、「ある」と回答した学生が70~80%おり、また、(5)生涯を通じて運動、スポーツをする機会を自分から作り「運動やスポーツのある生活」をしたいと思うかという質問(図6-(5))では90%以上の学生が、「強く思う」「思う」と回答していた。

以上の結果をまとめれば、学生は興味のあるスポーツもあり、健康の保持や体力の増進には、運動を継続することが大切なことも理解しているのだが、自分達からは積極的に、スポーツ、運動をする機会を作ろうとはせず体育実技を除いてはほとんど運動をしていないことが推測されよう。つまり、学生にある程度のスポーツ、運動プログラムを提供し、健康の保持、体力の向上を図ることは大学体育の大きな役割と考えてもよいのではないであろうか。

確かに、健康の維持や、体力の向上は、人生の第1の目標にはならないかも知れない。¹²⁾若い世代には、多少運動しないでいても体は動くし、生活面での無理もきく、動物の本能に起因するといわれる運動の欲求は、他の様々な社会的欲求、休息の欲求などの誘惑に負け、つい掻き消されがちになってしまう。¹³⁾更に大学生活4年間を終え社会に出れば、増々運動やスポーツをする機会は減少するであろう。このような環境にある学生に生涯を通して運動を実践できるような態度と能力を養い、健康の保持増進、体力の向上を図ることは、体育実技実施の意義として、重要なものの1つであると考える。

V. まとめ

本学の体育実技I、体育実技II、短期大学の体育実技履修生3085名に対し、体育実技に関する意識調査を行い、以下の結果を得た。

1) 保健体育実技が必修科目であることに賛成であると回答した割合は、体育実技I 58.9%、体育実技II 67.9%、短大の体育実技73.9%であり、現在の必修制度に賛成する割合は高かった。

2) 体育実技が選択科目であると想定した場合に本年度と同じ内容であっても受講すると回答した割合は、体育実技 I 45.6%、体育実技 II 62.1%、短大の体育実技 57.1%であった。また、種目の自由選択や、コースの自由選択等の案を提供した場合には、受講すると回答した割合が 20~40%近く増加し、学生の運動意欲が高いことが示唆された。

3) 大学の体育実技がどんな時間であったかという質問には、運動不足解消が最も多く、次いで気分転換、解放感を味わう時間、仲間との交流・ふれあいの時間と感じている学生が多かった。

4) 本学の保健体育実技について、設定種目が「よい」と回答した割合は、体育実技 I 40.0%、体育実技 II 58.3%、短大 48.6%であった。また、種目の決定の仕方については、順に、31.3%、51.3%、44.4%で種目の設定や、決定の仕方については、今後改善することが望しいと考えられる。

また、授業受講後の感想は全ての種目で、60.3~74.4%の者が「好印象」と回答しており学生の体育実技に関する評価は高いと考えられる。

5) 3年次以降にも保健体育実技が受講できるとしたらという質問に対しては、80%以上の学生が内容によっては受講するかもしれない、もしくは、できれば受講したいと回答し3年次以降にも何らかの形で体育実技のプログラムを開設した方が望ましいと思われる。

6) 1年間に体育実技以外のスポーツ・運動を行った者は、1年次生で67%、2年次生で49%で、2年生でスポーツに参加する時間が減少した。また、運動系サークルに所属している者は、短大を除いて40%以下であった。また、本学1,2年生には体力の低下を感じる学生が80%近くおり、ほとんどの学生が生涯スポーツ参加への関心も高いことが示唆された。

このような結果から、駒澤大学の保健体育実技は、学生の心身の健康の保持・増進を図る上でその役割は非常に大きく、一層の推進を図る必要があることが示唆された。

また、種目の設定や種目決定の仕方に関して検討の必要があり、今後更なる充実を図る必要が有ること、4年間を通して参加可能な体育・スポーツプログラムを用意することなどの改善課題が確認された。

更に、今後このアンケート結果を参考に、個々の教員が多様で個性のある授業を展開し教育の水準を向上、活性化することが重要であり、このような自己評価、自己点検を繰り返し行い、教育の現場にフィードバックすることによって、より資の高い教育を目指すことが、学生の学習の充実につながることに他ならないことを忘れてはならない。

付 記

本調査は、保健体育部長 長濱友雄教授の発案により、保健体育部カリキュラム委員会（委員長、牧野茂教授）が中心となり実施された。本調査に参画した教員は、下記の通りである。

長濱友雄 上山智身 牧野 茂 宮沢栄作 大石武士 高橋俊介 舘岡儀秋 森本 葵
太田 誠 光永吉輝 三幣晴三 田中佳孝 秋田浩一 村松 誠 竹田幸夫 江口淳一

また、本調査に御協力いただいた、保健体育部非常勤講師の先生方には大変お世話になり有難うございました。ここに感謝の意を表します。

参考文献

- 1) 大学審議会「大学教育の改善について(答申)」：(1991)
- 2) 文部省「大学設置基準の一部を改正する省令」：(1991)
- 3) 前畑安宏「大学審議会の答申と大学設置基準」大学体育43：P11—21 (1991)
- 4) 日本体育学会 体育原理専門分科会編「大学教育改革と保健体育の未来像—大学体育改革のための必読資料集」：不白末堂書店 (1991)
- 5) 全国大学体育連合 大学体育改善委員会「大学保健体育基本構想」大学体育43：P35—47 (1992)
- 6) 石川且ら「全国大学体育連合 指導者研修会：分科会報告」大学体育44：P85—97 (1992)
- 7) 日本体育学会東京支部 大学保健体育問題検討委員会「大学保健体育のあり方に関する調査—東京近郊の大学・短期大学生対象」東京体育学研究14：P113—122 (1987)
- 8) 全国大学体育連合関東支部 アンケート調査小委員会「関東支部アンケート調査結果報告」大学体育46：P93—102 (1992)
- 9) 全国大学体育連合 大学体育改善委員会 自己評価小委員会「大学保健体育の自己評価」大学体育43：P67—81 (1991)
- 10) 財団法人 大学基準協会あり方検討委員会 あり方検討委員会小委員会「大学の自己点検・評価の手引き」：財団法人 大学基準協会 (1992)
- 11) 野坂和則「大学保健体育実技に対する学生の意識からみた必修制の問題と課題」大学体育14(1)：P35—48 (1987)
- 12) 緒方通彦「(1)必修に価する大学体育とは」体育学研究34(増刊号)：P171—172 (1991)
- 13) 松田岩男、清原健司「スポーツ科学講座 6 スポーツの心理」大修館 (1982)
- 14) 松岡信之「大学体育と新カリキュラム」日本体育学会43回大会号：P555 (1992)
- 15) 深瀬吉邦、松永尚久「大学体育の方法を探る」体育の科学41(12)：P945—947 (1991)

保健体育実技に関するアンケート調査

このアンケート調査は、本学における「保健体育実技」をより良いものにしていくための基礎資料を得ることを目的として実施するものです。日頃感じているままに答えて下さい。尚、この調査は成績とは全く関係ありません。

学部：_____ 学科：_____ , 性別： 男女
受講曜日・時限： 曜日 時限 _____ 受講種目： 前期 _____ 後期 _____

- 保健体育実技が必修科目であることに対してどう思いますか。次の(1)～(3)それぞれについて、該当する番号を○で囲んで下さい。
 - 保健体育実技が必修科目であることには・・・
 - 賛成である
 - 反対である
 - どちらともいえない
 - 必修科目から選択科目に変わることは・・・
 - 賛成である
 - 反対である
 - どちらともいえない
 - 本学の保健体育実技の内容は・・・
 - 必修に値する
 - 必修に値しない
 - どちらともいえない
- 保健体育実技が選択科目である場合を想定し、次の(1)～(4)それぞれについて該当する番号を○で囲んで下さい。
 - 本年度と同じ内容だとしたら・・・
 - 受講する
 - 受講しない
 - わからない
 - 本学内で実施可能な数種目から自分のやりたい種目を選べるとしたら・・・
 - 受講する
 - 受講しない
 - わからない
 - 集中授業(夏期、冬期)で自分のやりたい種目を選べるとしたら・・・
 - 受講する
 - 受講しない
 - わからない
 - シーズン・スポーツを短期集中で行うとしたら・・・
 - 受講する
 - 受講しない
 - わからない
- 大学における保健体育実技はどんな時間でしたか。当てはまる番号すべてに○をつけて下さい。
 - 気分転換、解放感を味わう時間
 - 運動不足を解消する時間
 - 運動の楽しさ、爽快感を味わえる機会
 - 仲間との交流、ふれあいの機会
 - 新しい体験ができる時間
 - 運動のしかた、技能を学ぶ時間
 - マナー、ルール、態度を学べる時間
 - 積極的に参加する楽しみな時間
 - 連帯感、協力の楽しさを知る機会
 - スポーツ技能を向上させる機会
 - 友人を見つけられる機会
 - スポーツ意識、必要性を学ぶ機会
 - 生涯スポーツの基礎をつくる機会
 - 体力、運動能力を高める時間
 - 課題の達成、成就の喜びを得る時間
 - 単なる気晴らし、息抜き程度の時間
 - 敢えて努力したり、挑戦する時間
 - 単位を取るために仕方なく出席したいやな時間
 - あってもなくても、たいした意味を持たないで出席した時間
 - リーダーシップを発揮して得意になってスポーツをする時間。
 - 運動がきらいで劣等感を味わういやな時間
 - 仲間と運動するのが億劫で退屈な時間
 - その他 ()

4. 本学の保健体育実技について、次の(1)～(3)それぞれについて該当する番号を○で囲んで下さい。

(1) 開講種目についてどう思いますか。また、改善するとしたらどのように変えたらよいと思いますか。意見を書いて下さい。

- ①よ い ②悪 い ③どちらともいえない

改善策 _____

(2) 種目の決めかたについてどう思いますか。また、改善するとしたらどのように変えたらよいと思いますか。意見を書いて下さい。

- ①よ い ②悪 い ③どちらともいえない

改善策 _____

(3) 種目の内容はどうか？ 楽しい、好き、充実している、満足できる、などを「好印象」として、また、つまらない、嫌い、退屈である、不満足である、などを「悪印象」として総合的にとらえて判断し、前期、後期それぞれについて回答して下さい。

- ＜前期＞ ①好印象 ②悪印象 ③どちらともいえない

- ＜後期＞ ①好印象 ②悪印象 ③どちらともいえない

5. 3年次以降に、卒業単位にカウントされる保健体育実技が開講されるとしたらどうしますか。該当する番号を○で囲んで下さい。

- ①できれば受講したい ② 内容によっては受講するかもしれない ③受講しない

6. 日常での運動習慣、スポーツ活動について、次の(1)～(5)それぞれについて該当する番号を○で囲んで下さい。

(1) 今年1年間に保健体育実技の時間以外に運動やスポーツをしましたか。したのは何をどれくらいですか。

- ①し た(何を どれくらい) ②しない

(2) 運動系のクラブに入っていますか。その種目は何ですか。

- ①入っている(種目) ②入っていない

(3) 体力の低下を感じることはありませんか。それはどんな時ですか。

- ①あ る() ②な い

(4) 現在、自分で行うスポーツとして興味をもっているスポーツはありますか。それは何ですか

- ①あ る() ②な い

(5) 生涯にわたって、運動・スポーツをする機会を自分から作り『運動やスポーツがある生活』をしたいと思いますか。

- ①強くそう思う ②思 う ③思わない ④全くそう思わない

7. 保健体育実技に対する期待・意見・感想などありましたら、書いて下さい。

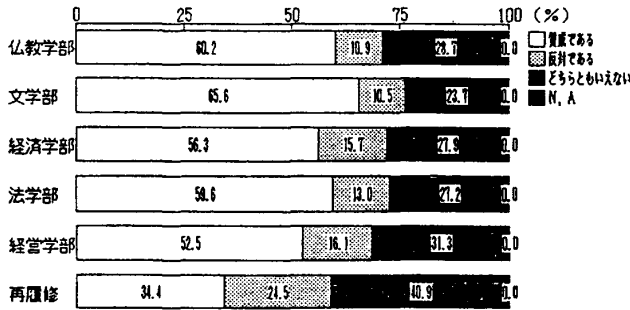
*ご協力ありがとうございました。

体育実技工 [仏教・文・経済・法・経営・再履修]

1. 保健体育実技が必修科目であることに対してどう思いますか。

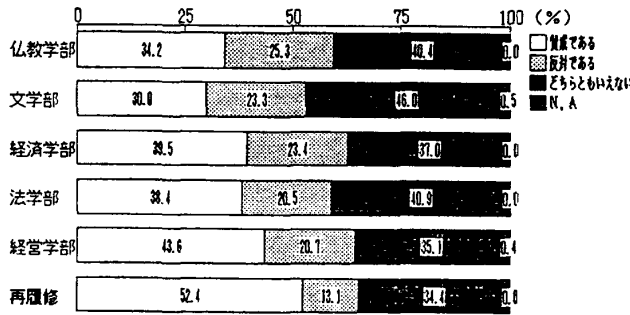
(1) 保健体育実技が必修科目であることには

①賛成である ②反対である ③どちらともいえない



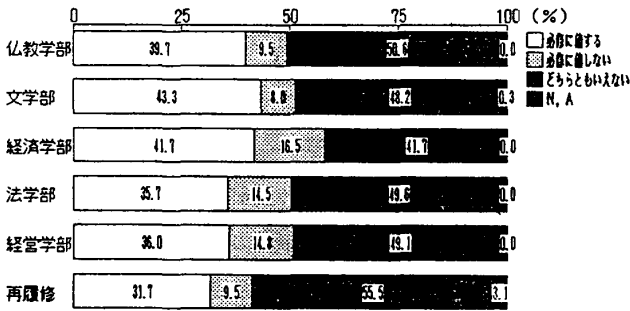
(2) 必修科目から選択科目に変わることは

①賛成である ②反対である ③どちらともいえない



(3) 本学の保健体育実技の内容は

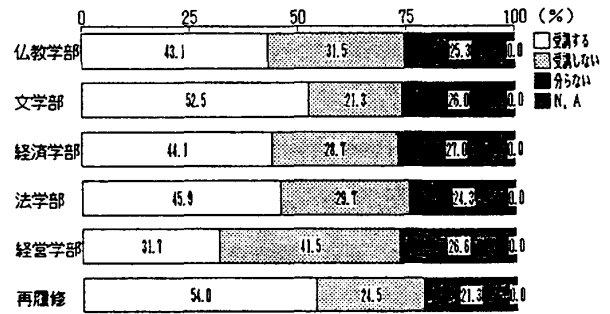
①必修に値する ②必修に値しない ③どちらともいえない



2. 保健体育実技が選択科目であると想定した場合に

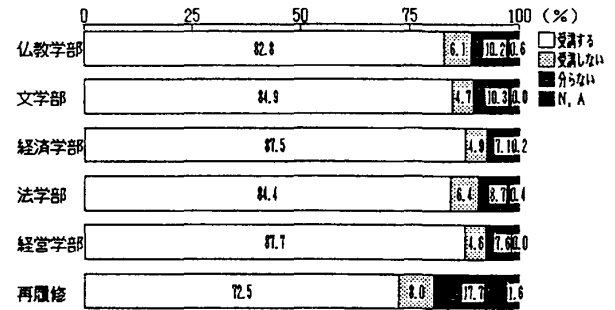
(1) 本年度と同じ内容だとしたら

①受講する ②受講しない ③わからない



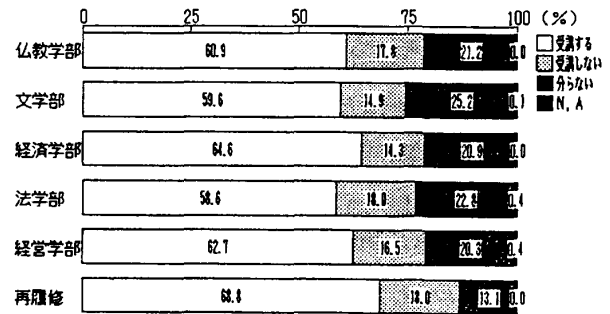
(2) 本学内で実施可能な数種目から自分のやりたい種目を選べるとしたら

①受講する ②受講しない ③わからない



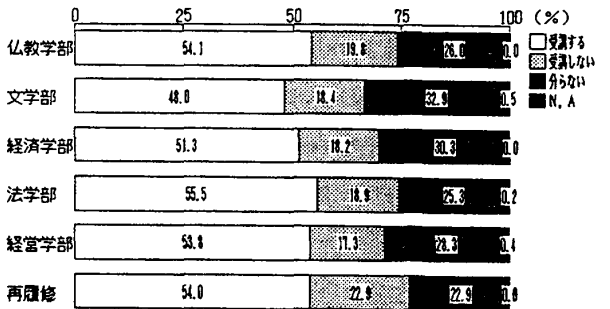
(3) 集中授業(夏季・冬季)で自分のやりたい種目を選べるとしたら

①受講する ②受講しない ③わからない

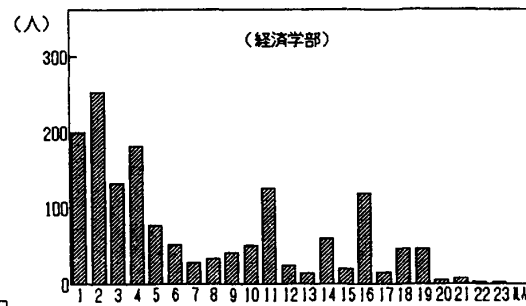
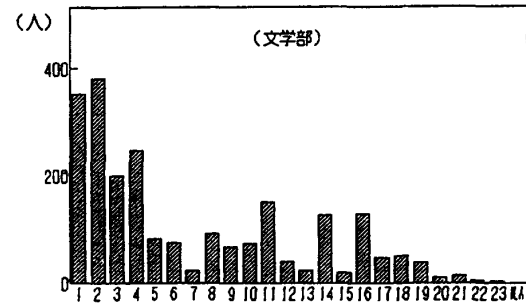
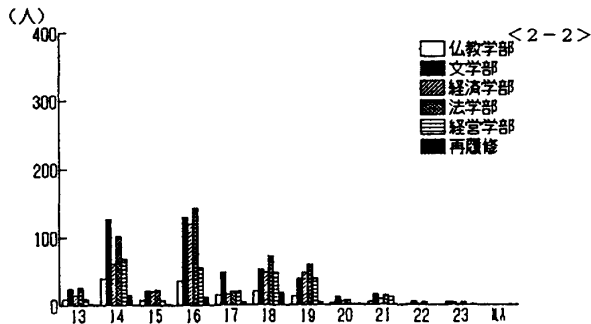
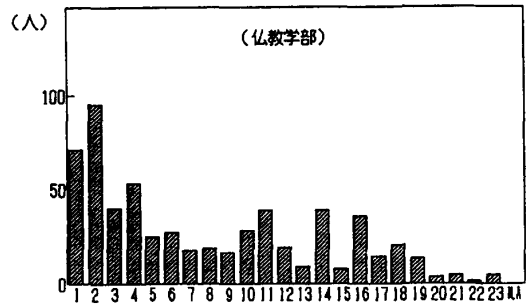
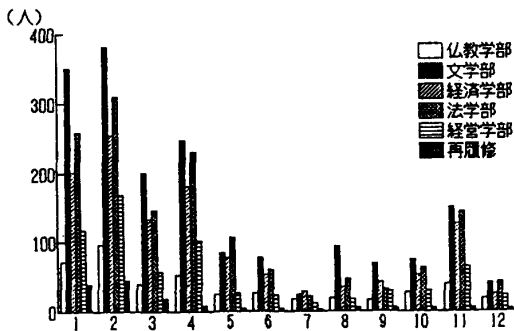


(4) シーズン・スポーツを短期集中で行うとしたら

①受講する ②受講しない ③わからない



3. 大学における保健体育実技はどんな時間でしたか。(複数回答)
 <2-1>

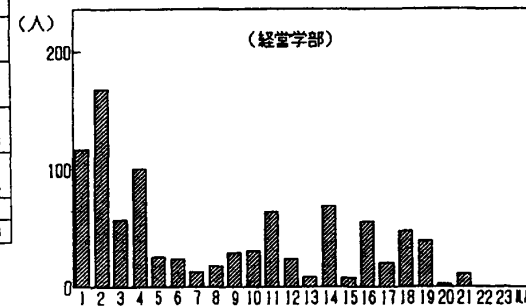
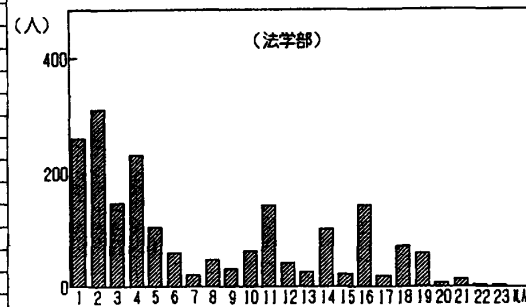


3. 大学における保健体育実技はどんな時間でしたか。(複数回答)

項目	仏教学部	文学部	経済学部	法学部	経営学部	再履修
1. 気分転換、解放感を味わう時間	48.6	69.0	55.5	53.8	49.6	63.9
2. 運動不足を解消する時間	65.1	74.9	70.2	64.4	71.2	73.8
3. 運動の楽しさ、興快感を味わえる機会	27.4	39.2	36.7	30.4	24.4	31.1
4. 仲間との交流、みれあいの機会	36.3	48.6	50.3	48.0	42.8	16.4
5. 新しい体験ができる時間	17.1	16.5	21.3	21.8	11.0	8.2
6. 運動のしかた、技能を学ぶ時間	18.5	15.1	14.7	12.5	10.2	8.2
7. マナー、ルール、態度を学ぶ時間	12.3	4.9	8.0	4.6	5.5	6.6
8. 積極的に参加する楽しみ時間	13.0	18.0	9.7	9.8	7.6	11.5
9. 連帯感、協力の楽しさを知る機会	11.6	13.3	11.9	6.9	12.3	11.5
10. スポーツ技能を向上させる機会	19.2	14.5	14.4	13.1	13.1	11.5
11. 友人を見つけられる機会	26.7	29.4	34.8	29.5	27.9	9.8
12. スポーツ意欲、必要性を学ぶ機会	13.7	8.0	6.9	6.7	10.2	8.2
13. 生涯スポーツの基礎をつくる機会	6.2	4.9	4.1	5.6	3.8	4.9
14. 体力、運動能力を高める時間	26.7	24.9	16.9	21.0	29.2	24.6
15. 課題の達成、達成の喜びを得る時間	5.5	4.3	5.8	5.0	3.4	3.3
16. 単なる気晴らし、息抜き程度の時間	24.7	25.5	33.1	29.5	23.3	21.3
17. 敷いて努力したり、挑戦する時間	10.3	9.4	4.7	4.4	8.9	8.2
18. 単位を取るために仕方なく出席した いやな時間	14.4	10.2	13.3	15.0	20.3	32.8
19. あってもなくても、たいた意味を 持たないで出席した時間	9.6	7.8	13.3	12.5	16.5	8.2
20. リーダーシップを発揮して 得意になってスポーツをする時間	2.8	2.4	1.7	1.7	1.3	3.3
21. 運動がきらいで劣等感を味わう いやな時間	3.4	3.1	2.5	3.1	5.1	1.6
22. 仲間と運動するのが億劫で退屈な時間	1.4	1.4	0.8	1.0	0.4	0
23. その他	3.4	1.0	0.8	1.0	0.4	3.3

<その他>

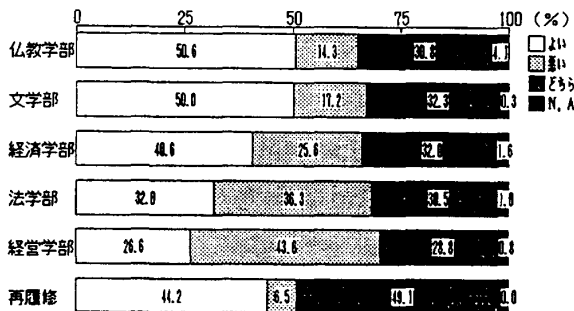
- 仏教学部：玉川の1限はつらい、暇い時間
- 文学部：体を軽くする時間、暇い時間、サークル前の体ならし
- 経済学部：1限でつらい、不得意な種目は苦痛だ、つまらない時間
- 法学部：体育実技は週1回では少ない、レベルが低くてくだらない
- 経営学部：記入なし
- 再履修：朝早くつらい時間



4. 本学の保健体育実技についてどう思いますか。

(1) 種目の設定のしかたについてどう思いますか。また、改善策は？

①よい ②悪い ③どちらともいえない

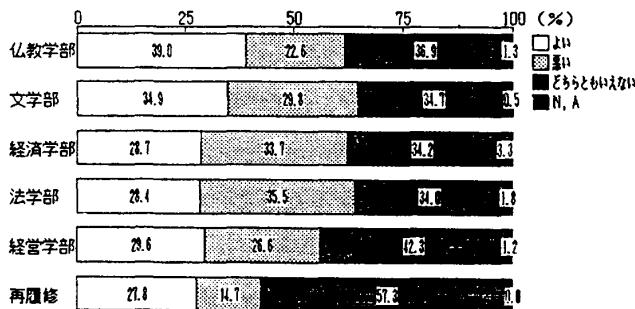


<改善策>

仏 教 学 部		法 学 部	
件数	割合	件数	割合
種目をふやす	22(3)	種目をふやす	97(18)
学部学科間の差をなくす	9(2)	学部学科間の差をなくす	35(6)
最新のスポーツを入れる	1(0)	不人気種目をなくす	18(0)
種目のローテーション	1(0)	全学部共通の選択にする	7(2)
事前にアンケートをとって	1(0)	時代のニーズにあった種目	3(0)
文 学 部		経 営 学 部	
件数	割合	件数	割合
種目をふやす	90(32)	種目をふやす	49(4)
学部学科間の差をなくす	30(15)	学部学科間の差をなくす	15(0)
希望種目を選ぶように	16(4)	楽しめるもの	4(0)
事前にアンケートをとって	14(4)	女子に適した種目	2(2)
不人気種目をなくす	7(1)	事前にアンケートをとって	1(0)
経 済 学 部		再 履 修	
件数	割合	件数	割合
種目をふやす	67(4)	種目をふやす	5(0)
学部学科間の差をなくす	11(0)	楽しめる時間をふやす	1(0)
人気種目のみにする	10(1)	2時間目以降にする	1(0)
希望種目を選ぶように	10(0)	時間を選ぶようにする	1(0)
女子に適した種目	2(2)		

(2) 種目の決定のしかたについてどう思いますか。また、改善策は？

①よい ②悪い ③どちらともいえない



<改善策>

仏 教 学 部		法 学 部	
件数	割合	件数	割合
人数制限をなくす	10(0)	希望種目を選ぶように	72(11)
希望種目を選ぶように	5(1)	開講種目を平等に	15(0)
半強制(ジャンク)をやめる	3(0)	半強制(ジャンク)をやめる	13(7)
開講種目を平等に	2(2)	全科目オープン(解禁)付	11(6)
仕方がない	2(0)	アンケートをとって決める	7(2)
文 学 部		経 営 学 部	
件数	割合	件数	割合
希望種目を選ぶように	99(37)	希望種目を選ぶように	9(0)
半強制(ジャンク)をやめる	19(5)	開講種目を平等に	6(0)
人数制限の改善	13(10)	多科目から多数決で	1(0)
個人の意見を尊重する	10(3)	人気のないものをなくす	1(0)
人気種目の教員をふやす	4(1)		
経 済 学 部		再 履 修	
件数	割合	件数	割合
希望種目を選ぶように	57(5)	種目を豊富に	3(0)
自由選択にする	8(0)	人数制限をなくす	2(0)
半強制(ジャンク)をやめる	4(1)		
仕方がない	4(0)		

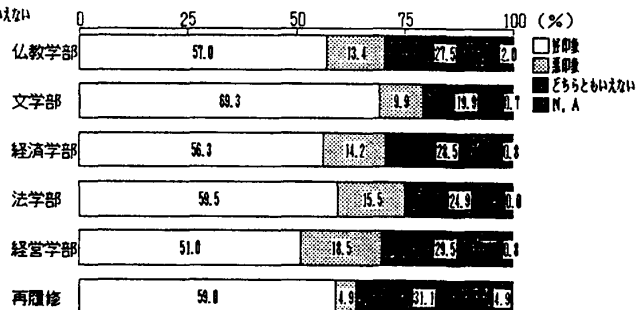
(3) 種目の内容はどうでしたか？

[好印象] ・楽しい、好き、充実している、満足できる、など

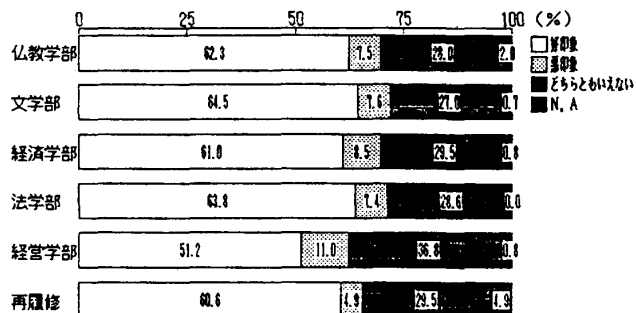
[悪印象] ・つまらない、嫌い、退屈である、不満足である、など

①好印象 ②悪印象 ③どちらともいえない

<前期>



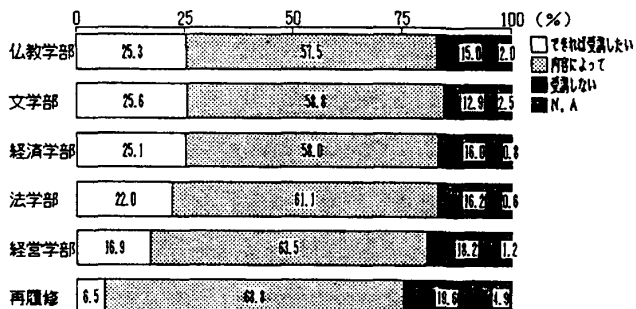
<後期>



5. 3年次以降にも保健体育実技が受講できるとしたらどうしますか。

①できれば受講したい ②内容によっては受講するかもしれない

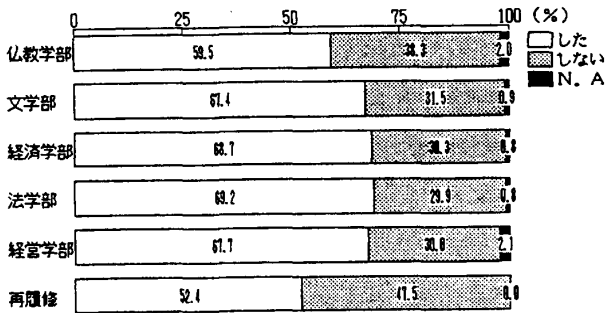
③受講しない



6. 日常での運動習慣、スポーツ活動について答えて下さい。

(1) 今年1年間に保健体育実技の時間以外に運動やスポーツをしましたか、したのは何をどれくらいですか。

①した(何を どれくらい) ②しない



<1年間に実施した運動・スポーツ種目>

○数値, ()月, 人数

種目	仏教学部	文学部	経済学部	法学部	経営学部	再履修
テニス	① 30(3)	① 155(93)	① 91(6)	① 127(29)	① 48(5)	② 6(0)
野球	② 16(2)	② 74(7)	② 47(0)	② 46(0)	② 26(0)	① 8(0)
サッカー	③ 4(1)	③ 20(0)	③ 17(0)	④ 21(0)	③ 15(0)	
ジョギング	③ 4(1)	⑥ 11(0)			⑤ 6(2)	④ 2(0)
バドミントン	⑤ 3(0)					
空手道	⑤ 3(0)					
ラグビー	⑤ 3(0)					
水泳		④ 17(11)	⑥ 2(0)	③ 31(8)	④ 7(2)	③ 3(0)
バレーボール		⑤ 16(5)	⑥ 2(0)	⑦ 5(0)		
スキー		⑦ 8(1)		⑤ 9(0)		④ 2(0)
バスケットボール		⑦ 8(1)	④ 8(0)	⑥ 6(0)	⑥ 5(0)	
弓道		⑧ 6(1)				
剣道		⑧ 4(2)				
ゴルフ			⑤ 6(0)			
相撲			⑥ 2(0)			
カヌート						③ 3(0)
ヨット						④ 2(0)

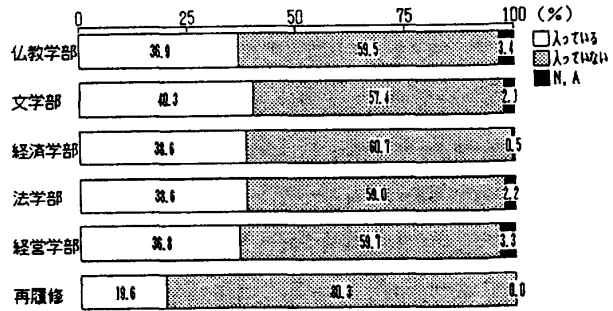
<実施頻度>

○数値, ()月, 人数

頻度	仏教学部	文学部	経済学部	法学部	経営学部	再履修
毎日	② 13(1)	⑤ 13(2)	② 21(2)	② 44(6)	② 12(0)	
週3-4日	④ 9(0)	③ 32(6)	② 21(0)	② 44(3)	④ 8(0)	② 2(0)
週1-2日	① 19(1)	① 117(47)	① 63(2)	① 80(9)	① 57(1)	① 4(0)
月3-4日		⑥ 7(5)		③ 15(1)		① 4(0)
月1-2日	⑤ 4(1)	④ 21(11)	④ 13(0)	④ 9(0)		
年数回	② 13(1)	② 45(14)	⑤ 7(0)	⑤ 8(0)	③ 9(0)	② 2(0)

(2) 運動系のクラブに入っていますか、その種目は何ですか。

①入っている(種目) ②入っていない



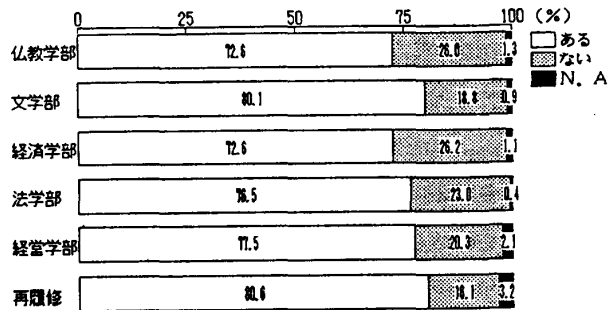
<入部種目>

○数値, ()月, 人数

種目	仏教学部	文学部	経済学部	法学部	経営学部	再履修
テニス	① 15(4)	① 121(76)	① 50(5)	① 75(14)	① 25(5)	① 3(0)
野球	② 7(0)	② 30(0)	② 22(0)	② 18(0)	② 12(0)	
サッカー	③ 6(1)	③ 13(1)	③ 6(0)	③ 12(0)	③ 4(0)	
ラグビー	⑥ 2(0)		⑧ 2(0)			
バレーボール		⑤ 6(2)	⑤ 3(0)			
バスケットボール			⑤ 4(0)		④ 3(0)	
ゴルフ	⑥ 2(0)		⑥ 3(0)	⑥ 2(0)		
マラソン				④ 10(1)		
卓球	⑤ 3(2)					
スキー	④ 4(0)	④ 12(4)	③ 6(0)	⑤ 3(0)	④ 3(0)	
空手道	⑥ 2(0)					
弓道		⑥ 4(1)				
陸上		⑦ 3(0)				
バドミントン					⑥ 2(0)	
ヨット						① 3(0)

(3) 体力の低下を感じることがありますか、それはどんな時ですか。

①ある() ②ない



<体力の低下を感じるとき>

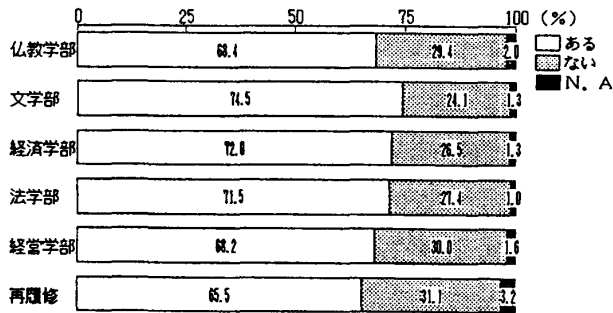
()月, 人数

仏教学部		法学部	
走ったとき	33(6)	走ったとき	121(12)
運動時	9(0)	運動時	56(1)
疲れやすい	9(0)	日常生活で	45(7)
階段の昇降	6(0)	階段の昇降	30(10)
息切れする	2(0)	疲れやすい	8(0)
文学部		経営学部	
走ったとき	158(47)	走ったとき	48(3)
階段の昇降	66(37)	運動時	16(0)
運動時	60(17)	階段の昇降	13(1)
疲れやすい	32(13)	日常生活で	10(1)
運動後	5(2)	息切れする	8(0)
経済学部		再履修	
走ったとき	70(3)	走ったとき	13(0)
運動時	24(0)	階段の昇降	10(0)
階段の昇降	20(3)	運動後	2(0)
疲れやすい	17(1)	疲れやすい	2(0)
息切れする	8(0)		

6. 日常での運動習慣、スポーツ活動について答えて下さい。

(4) 現在、自分で行うスポーツとして興味をもっているものがありますか。それは何ですか。

①ある () ②ない①



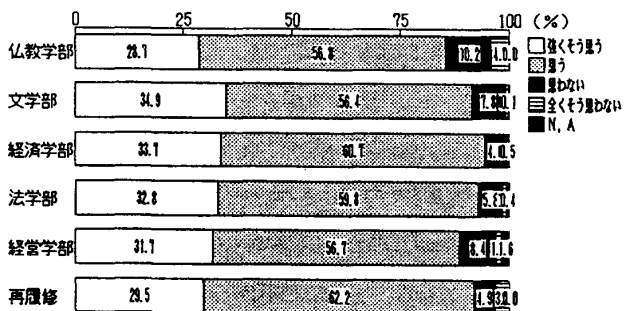
<興味のあるスポーツ>

○回答数、()内、女子数

種目	仏教学部	文学部	経済学部	法学部	経営学部	再履修
スキー	① 16(2)	② 84(45)	① 51(8)	① 82(19)	② 23(2)	① 6(0)
テニス	② 11(3)	① 106(63)	① 51(4)	② 72(14)	① 31(4)	③ 3(0)
サッカー	③ 9(1)	④ 24(1)	④ 26(0)	③ 41(0)	④ 8(0)	
野球	③ 9(0)	③ 43(0)	③ 28(0)	④ 35(0)	③ 18(1)	③ 3(0)
バレーボール	⑤ 5(0)	⑥ 13(9)	⑥ 4(0)	⑥ 7(0)		
ゴルフ	⑥ 4(0)	⑦ 10(7)	⑤ 8(0)	⑤ 28(7)	⑤ 6(0)	② 5(0)
ラグビー	⑥ 4(0)		⑤ 3(0)	⑥ 5(0)		
バドミントン	⑥ 3(0)					
バスケットボール		⑥ 7(1)	⑦ 5(0)			
卓球				④ 4(0)		
水泳		⑤ 16(14)	⑥ 6(1)	⑥ 7(1)	⑥ 5(2)	
スキューバダイビング				⑥ 5(0)		
空手道				④ 4(0)		
ダンス		⑤ 5(5)				
エアロビクス		④ 4(4)				

(5) 生涯にわたって、運動・スポーツをする機会を自分からつくり『運動やスポーツがある生活』をしたいと思いませんか。

①強く思う ②思う ③思わない ④全くそう思わない

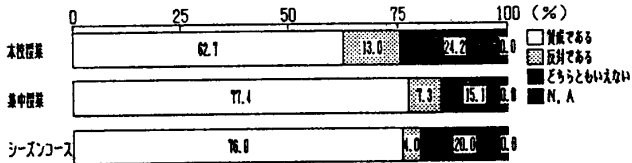


体育実技 II [本校授業・集中授業・シーズンコース] ※後期のみ

1. 保健体育実技が必修科目であることに対してどう思いますか。

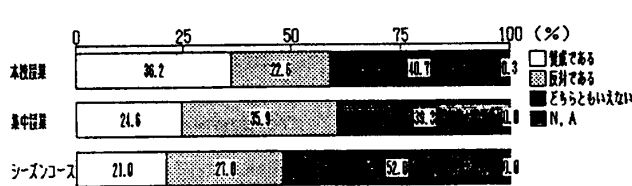
(1) 保健体育実技が必修科目であることには

①賛成である ②反対である ③どちらともいえない



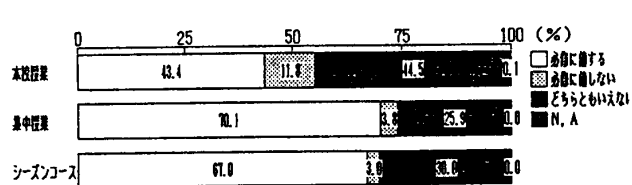
(2) 必修科目から選択科目に変わることは

①賛成である ②反対である ③どちらともいえない



(3) 本学の保健体育実技の内容は

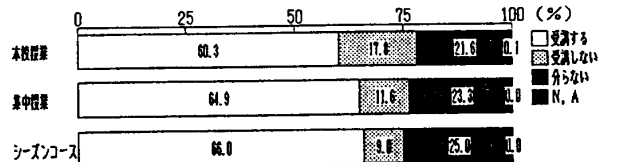
①必修に値する ②必修に値しない ③どちらともいえない



2. 保健体育実技が選択科目であると想定した場合に

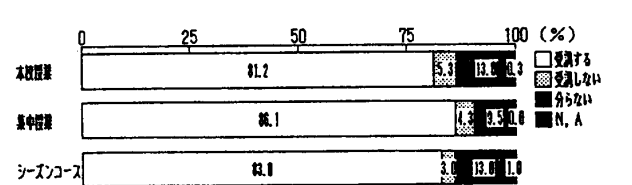
(1) 本年度と同じ内容だとしたら

①受講する ②受講しない ③わからない



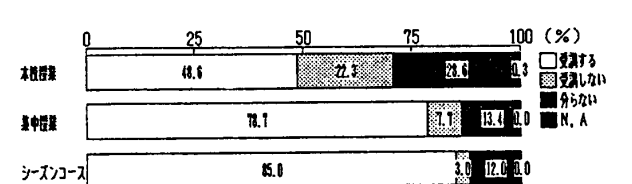
(2) 本学内で実施可能な数種目から自分のやりたい種目を選べるとしたら

①受講する ②受講しない ③わからない



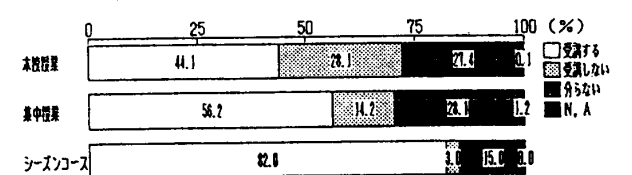
(3) 集中授業(夏季・冬季)で自分のやりたい種目を選べるとしたら

①受講する ②受講しない ③わからない



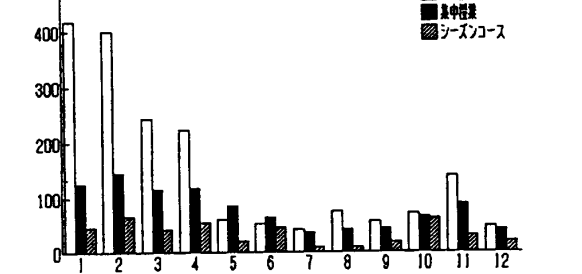
(4) シーズン・スポーツを短期集中で行うとしたら

①受講する ②受講しない ③わからない

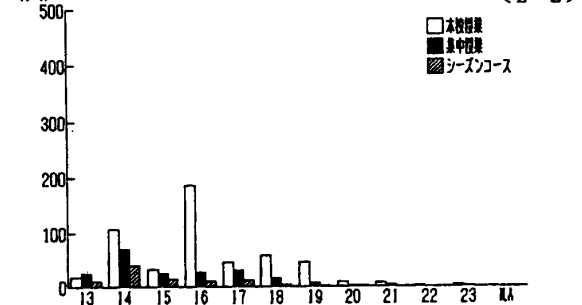


3. 大学における保健体育実技はどんな時間でしたか(複数回答)

(人) <2-1>



(人) <2-2>



3. 大学における保健体育実技はどんな時間でしたか。(複数回答)

%

項目	本校授業	集中授業	シーズンコース
1. 気分転換、解放感を味わう時間	71.8	54.1	45.0
2. 運動不足を解消する時間	68.9	62.8	66.0
3. 運動の楽しさ、爽快感を味わえる機会	41.8	49.8	42.0
4. 仲間との交流、ふれあいの機会	38.3	50.6	54.0
5. 新しい体験ができる時間	10.3	37.2	20.0
6. 運動のしかた、技能を学ぶ時間	9.1	27.3	45.0
7. マナー、ルール、態度を学ぶ時間	7.2	15.6	10.0
8. 積極的に参加する楽しみな時間	12.9	18.6	9.0
9. 連帯感、協力の楽しさを知る機会	9.6	19.0	18.0
10. スポーツ技術を向上させる機会	12.2	28.1	61.0
11. 友人を見つげられる機会	23.9	38.1	32.0
12. スポーツ意義、必要性を学ぶ機会	8.2	18.6	20.0
13. 生涯スポーツの基礎をつくる機会	3.1	11.3	11.0
14. 体力、運動能力を高める時間	18.4	30.7	40.0
15. 課題の達成、成敗の喜びを得る時間	5.8	11.3	16.0
16. 単なる気晴らし、息抜き程度の時間	31.8	12.1	12.0
17. 取って代りたり、挑戦する時間	7.9	13.9	14.0
18. 単位を取るために仕方なく出席した いやな時間	10.1	7.4	5.0
19. あってもなくても、たいした意味を 持たないで出席した時間	7.9	3.5	2.0
20. リーダーシップを発揮して 得意になってスポーツをする時間	1.5	0.9	2.0
21. 運動がきらいで劣等感を味わう いやな時間	1.4	1.7	1.0
22. 仲間と運動するのが億劫で退屈な時間	0.3	0	0
23. その他	0.8	0.9	1.0

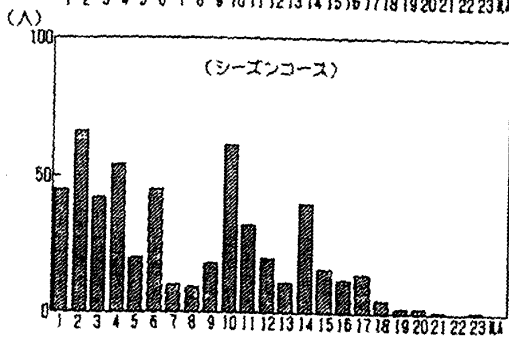
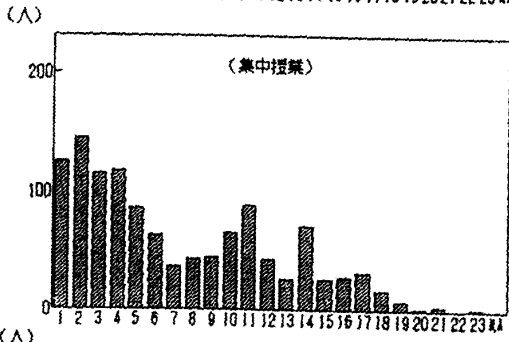
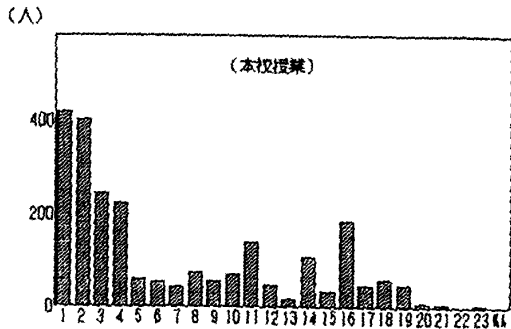
<その他>

本校授業：面白い、授業があるから、先生と知り合う時間。

大学の授業には何も期待していない

集中授業：記入なし

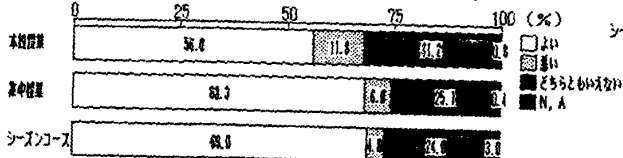
シーズン・コース：単位の為の時間(嫌ではなく)



4. 本学の保健体育実技についてどう思いますか。

(1) 種目の設定のしかたについてどう思いますか。また、改善策は？

①よい ②悪い ③どちらともいえない



<種目設定の改善策>

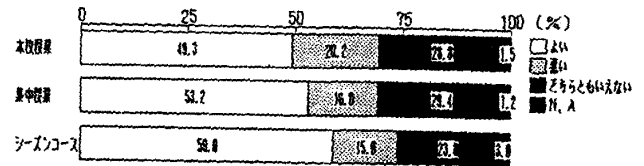
本校授業	件数
種目をふやす	74(3)
学部学科間の差をなくす	5(1)
シーズンスポーツを考える	5(0)
希望種目を選べるように	3(0)
シーズン・集中の定員をふやす	2(0)
集中授業	
種目をふやす	18(3)
自分の好きな種目	6(0)
この授業内容ならば満足	2(0)
本校でできる種目	1(0)
複数種目を行う	1(0)
シーズンコース	
種目をふやす	15(8)
種目の内容を考えてほしい	2(1)
学部学科間の差をなくす	1(1)

<種目決定の改善策>

本校授業	件数
希望種目を選べるように	24(0)
先着順をやめる	12(0)
人数制限をなくす	10(0)
抽選やくじで決める	4(0)
希望を聞く(アンケート)	4(0)
集中授業	
希望種目を選べるように	15(2)
先着順をやめる	7(1)
人数制限をなくす	4(0)
人気スポーツをふやす	2(0)
人気のある種目は抽選で	2(0)
シーズンコース	
人数制限をなくす	14(3)
希望を聞く(アンケート)	1(1)
学部学科間の差をなくす	1(1)
男女の扱いを考慮する	1(1)
人気のない種目はやめる	1(0)

(2) 種目の決定のしかたについてどう思いますか。また、改善策は？

①よい ②悪い ③どちらともいえない



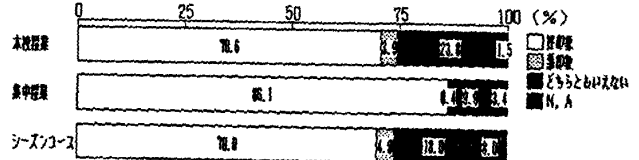
(3) 種目の内容はどうか？

【好印象】・楽しい、好き、充実している、満足できる、など

【悪印象】・つまらない、嫌い、退屈である、不満足である、など

①好印象 ②悪印象 ③どちらともいえない

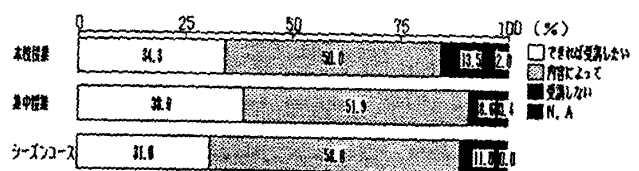
<後期>



5. 3年次以降にも保健体育実技が受講できるとしたらどうしますか。

①できれば受講したい ②内容によっては受講するかもしれない

③受講しない

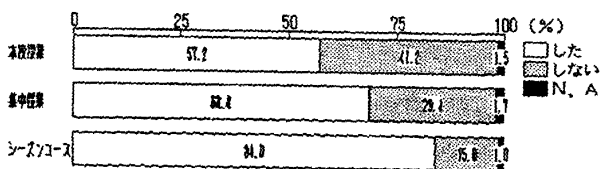


6. 日常での運動習慣、スポーツ活動について答えて下さい。

(1) 今年1年間に保健体育実技の時間以外に運動やスポーツをしましたか。

したの何をもどれくらいですか。

①した(何を どれくらい) ②しない



<1年間に実施した運動・スポーツ種目> ○複数選択 ()件、女子数

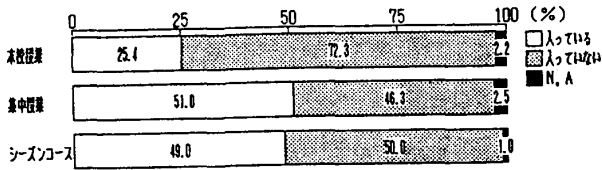
種目	本校授業	集中授業	シーズンコース
テニス	① 107(19)	① 44(12)	① 38(19)
野球	② 55(0)	② 38(0)	④ 5(0)
サッカー	③ 23(0)		
ゴルフ	⑤ 16(1)	④ 6(0)	
フットサル		⑤ 5(0)	
バドミントン		⑥ 3(0)	
スキー	⑥ 9(0)		② 25(9)
水泳	③ 23(1)	⑧ 3(0)	③ 12(9)
ヨット		⑩ 5(0)	
トーンズ	⑦ 2(0)	⑨ 7(0)	⑤ 3(2)
空手道		⑤ 5(0)	
剣道		⑤ 5(1)	

<実施頻度>

頻度	本校授業	集中授業	シーズンコース
毎日	③ 26(0)	① 44(1)	⑤ 3(1)
週3~4日	② 54(1)	③ 21(4)	② 10(4)
週1~2日	① 60(7)	② 31(2)	③ 8(2)
月3~4日		⑤ 2(1)	④ 5(4)
月1~2日	④ 23(0)	⑤ 2(1)	
年数回	⑤ 14(1)	④ 9(0)	① 14(9)

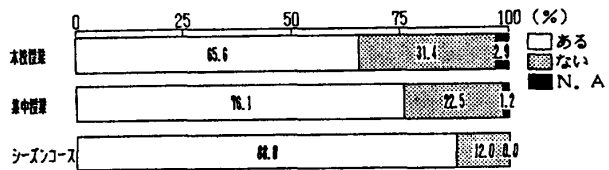
(2) 運動系のクラブに入っていますか。その種目は何ですか。

①入っている(種目) ②入っていない



(4) 現在、自分で行うスポーツとして興味をもっているものがありますか。それは何ですか。

①ある() ②ない



<入部種目>

○数字は、()男、()女

種目	本校授業	集中授業	シーズンコース
テニス	① 67(12)	③ 36(12)	① 31(14)
野球	② 22(1)	② 24(0)	③ 2(0)
ゴルフ	③ 7(0)	③ 6(0)	
サッカー	④ 6(0)		⑤ 1(0)
ラグビー	⑤ 4(0)		
フット		④ 5(0)	
バスケット		⑥ 3(2)	③ 2(0)
スキー	⑥ 3(0)		② 8(3)
ヨット		④ 5(0)	
フットボール	⑤ 4(0)		
空手道		④ 5(0)	
剣道		④ 5(1)	
合気道		⑥ 3(0)	

<興味のあるスポーツ>

○数字は、()男、()女

種目	本校授業	集中授業	シーズンコース
スキー	① 74(8)	① 38(5)	① 37(15)
テニス	② 48(8)	③ 17(4)	② 27(14)
野球	③ 43(1)	④ 10(0)	
サッカー	④ 20(0)	⑦ 4(0)	
ゴルフ	⑤ 14(1)	② 30(7)	④ 6(3)
バスケット	⑥ 13(0)		
ラグビー	⑦ 4(0)	⑦ 4(0)	
フット		⑥ 5(0)	
バレー			⑤ 4(1)
水泳	⑧ 13(0)	⑤ 6(2)	③ 9(7)
大相撲		⑨ 3(0)	
ボクシング		⑨ 3(0)	

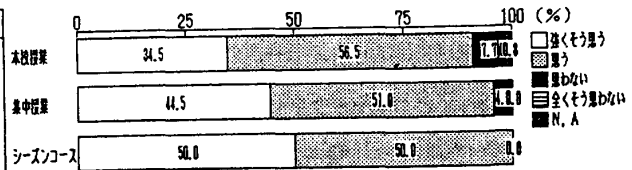
(5) 生涯にわたって、運動・スポーツをする機会を自分からつくり『運動やスポーツがある生活』をしたいと思いますか。

①強く思う ②思う ③思わない ④全くそう思わない

<体力の低下を感じる時>

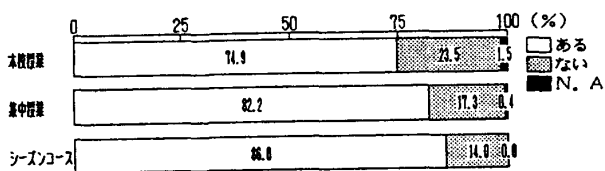
()男、()女

本校授業	集中授業	シーズンコース
走ったとき 92(6)	走ったとき 71(9)	走ったとき 27(16)
階段の昇降 48(7)	階段の昇降 21(12)	階段の昇降 14(8)
運動後 46(0)	運動時 18(2)	疲れやすい 10(4)
疲れやすい 27(5)	日常生活で 9(2)	運動時 7(2)
息切れする 24(3)	運動の回復が遅い 6(1)	持久力の低下 6(6)



(3) 体力の低下を感じることはありませんか。それはどんな時ですか。

①ある() ②ない

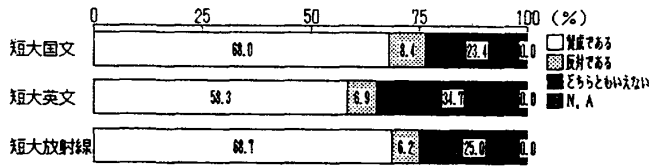


短期大学 [国文科・英文科・放射線科]

1. 保健体育実技が必修科目であることに対してどう思いますか。

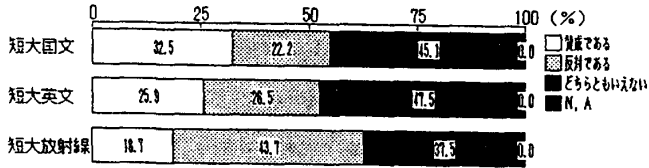
(1) 保健体育実技が必修科目であることには

①賛成である ②反対である ③どちらともいえない



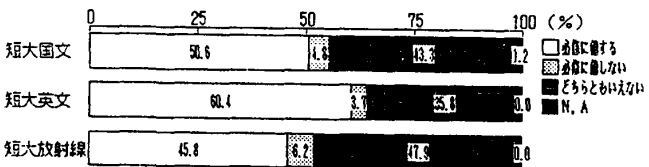
(2) 必修科目から選択科目に変わるとは

①賛成である ②反対である ③どちらともいえない



(3) 本学の保健体育実技の内容は

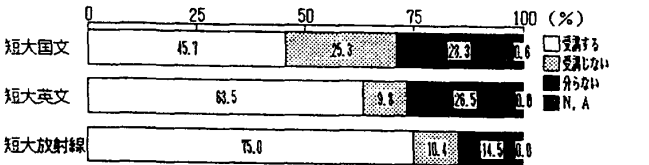
①必修に値する ②必修に値しない ③どちらともいえない



2. 保健体育実技が選択科目であると想定した場合に

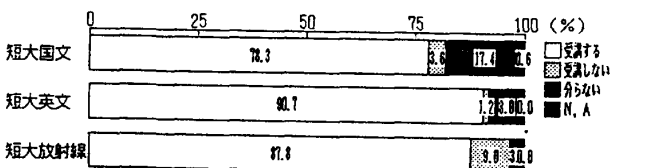
(1) 本年度と同じ内容としたら

①受講する ②受講しない ③わからない



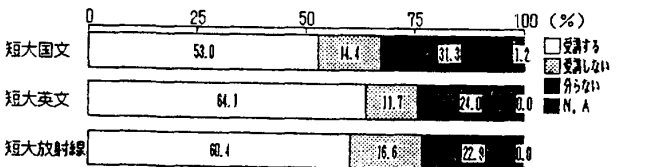
(2) 本学内で実施可能な数種目から自分のやりたい種目を選べるとしたら

①受講する ②受講しない ③わからない



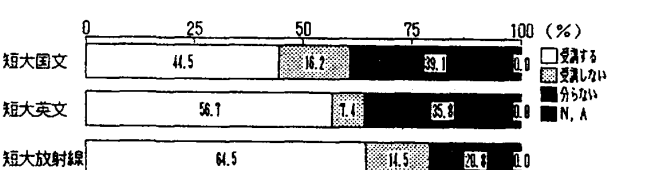
(3) 集中授業(夏季・冬季)で自分のやりたい種目を選べるとしたら

①受講する ②受講しない ③わからない



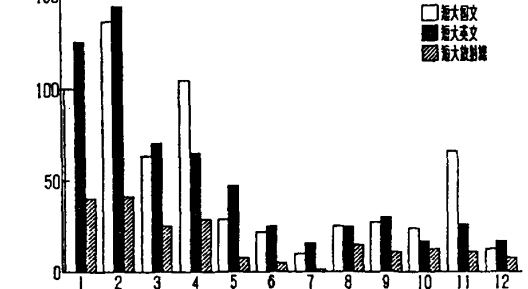
(4) シーズン・スポーツを短期集中で行うとしたら

①受講する ②受講しない ③わからない

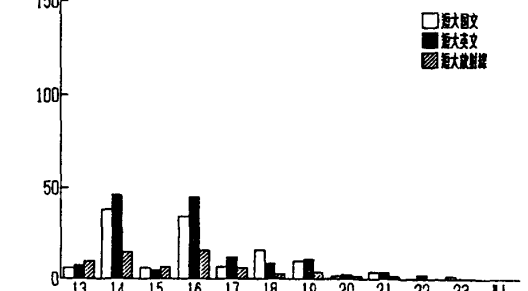


3. 大学における保健体育実技はどんな時間でしたか(複数回答)

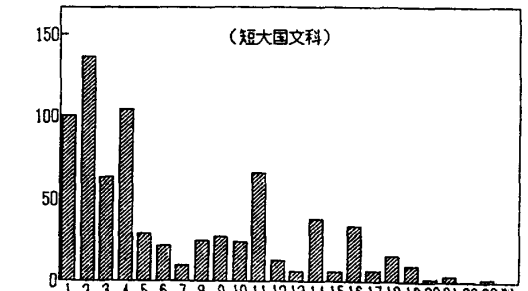
(人) <2-1>



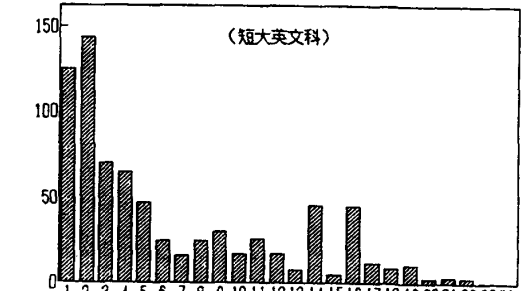
(人) <2-2>



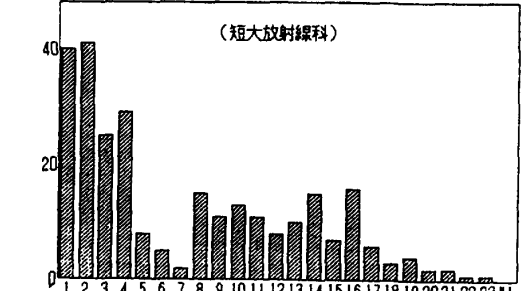
(人)



(人)

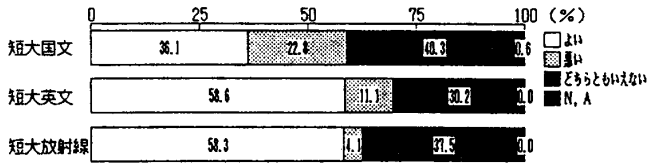


(人)



4. 本学の保健体育実技についてどう思いますか。

- (1) 種目の設定のしかたについてどう思いますか。また、改善策は？
 ①よい ②悪い ③どちらともいえない



<種目設定の改善策>

国文科	希望数
種目をふやす	57(57)
団体スポーツをやりたい	9(9)
希望種目を選ぶように	6(6)
屋外スポーツ	5(5)
希望を聞く(アンケート)	2(2)

英文科	希望数
種目をふやす	31(31)
テニスを入れて	4(4)
人数制限をなくす	2(2)
週2回にしてほしい	1(1)
集中・シーズンもやりたい	1(1)

放射線科	希望数
自分のやりたい種目	2(0)
種目を選択できるように	1(1)

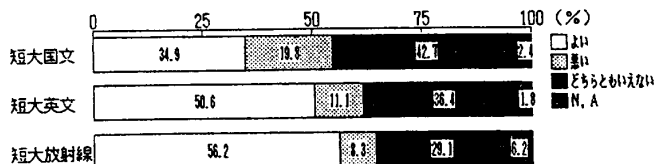
<種目決定の改善策>

国文科	希望数
希望種目を選ぶように	17(17)
選択の幅がない	15(15)
アンケートで決める	2(2)
半期のみにする	1(1)

英文科	希望数
種目をふやす	16(16)
人数制限をなくす	15(15)
前後期とも同一種目	4(4)
アンケートで決める	1(1)

放射線科	希望数
個人の意見を尊重して	2(0)
格闘技を入れて	1(0)
晴雨での種目の区別	1(0)

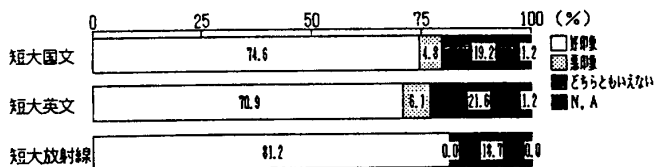
- (2) 種目の決定のしかたについてどう思いますか。また、改善策は？
 ①よい ②悪い ③どちらともいえない



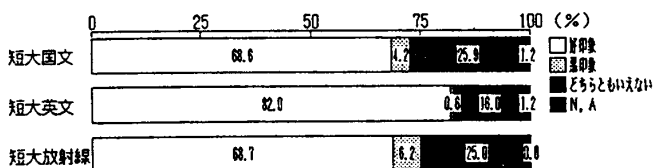
(3) 種目の内容はどうか？

- [好印象] ・楽しい、好き、充実している、満足できる、など
 [悪印象] ・つまらない、嫌い、退屈である、不満足である、など
 ①好印象 ②悪印象 ③どちらともいえない

<前期>

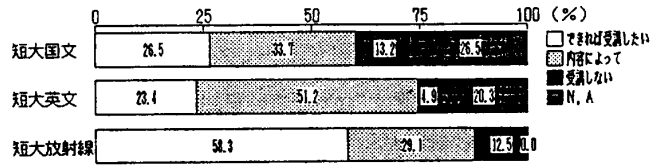


<後期>



5. 3年次以降にも保健体育実技が受講できるとしたらどうしますか。

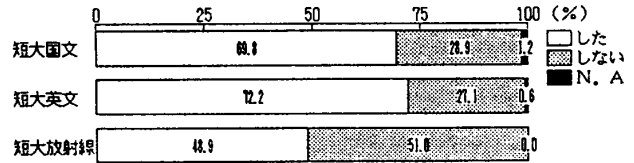
- ①できれば受講したい ②内容によっては受講するかもしれない
 ③受講しない



6. 日常での運動習慣、スポーツ活動について答えて下さい。

- (1) 今年1年間に保健体育実技の時間以外に運動やスポーツをしましたか。したのは何をどれくらいですか。

- ①した(何をどれくらい) ②しない



<1年間に実施した運動・スポーツ種目> ○数字順、()内、女子数

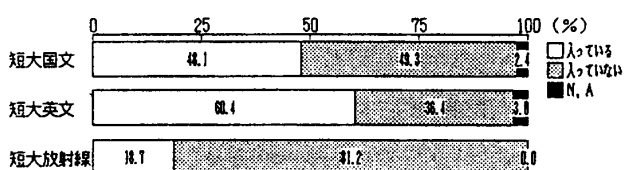
種目	国文科	英文科	放射線科
テニス	① 79(79)	① 94(94)	① 9(5)
ソフトボール	⑥ 3(3)		② 6(0)
サッカー	⑤ 5(5)	④ 4(4)	⑤ 2(0)
バドミントン	③ 11(11)		
バレーボール	④ 9(9)	⑤ 2(2)	⑤ 2(2)
バスケボール		③ 6(6)	
ゴルフ			③ 3(0)
水泳	② 12(12)	② 8(8)	③ 3(3)
スキューバダイビング		⑤ 2(2)	
トレーニング		⑤ 2(2)	
弓道	⑦ 2(2)		

<実施頻度>

頻度	国文科	英文科	放射線科
毎日		④ 1(1)	② 2(0)
週3~4日	④ 3(3)		
週1~2日	① 14(14)	① 40(40)	
月1~2日	③ 4(4)	② 4(4)	② 2(0)
年数回	② 7(7)	③ 2(2)	① 5(5)

(2) 運動系のクラブに入っていますか。その種目は何ですか。

- ①入っている(種目) ②入っていない

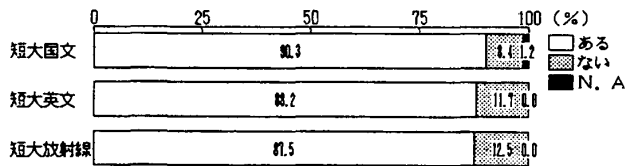


<入部種目>

種目	国文科	英文科	放射線科
テニス	① 50(50)	① 70(70)	① 8(6)
野球	② 5(5)		
サッカー	④ 3(3)	④ 1(1)	
バレーボール	④ 3(3)	② 2(2)	
バスケボール		④ 1(1)	
ソフトボール		④ 1(1)	
スキー	③ 4(4)	② 2(2)	
スキューバダイビング		④ 1(1)	
フットボール		④ 1(1)	
剣道	④ 3(3)		
弓道	⑦ 2(2)		

(3) 体力の低下を感じることがありますか。それはどんな時ですか。

①ある () ②ない



<体力の低下を感じるとき>

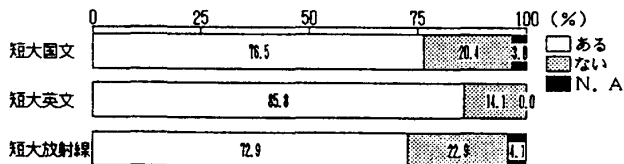
()人、女子数

国文科	英文科	放射線科
階段の昇降 51(51)	階段の昇降 58(58)	走ったとき 11(5)
走ったとき 32(32)	走ったとき 37(37)	疲れやすい 9(3)
疲れやすい 10(10)	疲れやすい 10(10)	体育の時間 4(4)
運動後 7(7)	歩いても疲れる 3(3)	階段の昇降 2(2)
体育の時間 5(5)	運動時 2(2)	
通学 5(5)		

(4) 現在、自分で行うスポーツとして興味をもっているものがありますか。

それは何ですか。

①ある () ②ない



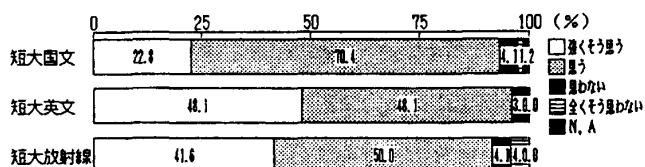
<興味のあるスポーツ>

○数字は人数、()人、女子数

種目	国文科	英文科	放射線科
テニス	① 49(49)	① 58(58)	② 6(3)
野球			④ 3(0)
サッカー			③ 4(0)
ゴルフ	⑤ 4(4)		④ 3(0)
バスケットボール		⑤ 6(6)	
バレーボール	④ 9(9)	⑦ 2(2)	
卓球			④ 3(3)
ラグクロス	⑧ 2(2)		
スノーシュー	⑧ 2(2)		
スキー	② 27(27)	② 30(30)	① 12(10)
スケート	⑧ 2(2)		⑧ 2(2)
水泳	③ 17(17)	③ 22(22)	④ 3(3)
スキューバダイビング	⑤ 4(4)		
パラライダー	⑩ 2(2)	⑥ 3(3)	
エアロビクス	⑤ 4(4)	④ 17(17)	
ジャズダンス		⑦ 2(2)	
空手道		⑦ 2(2)	

(5) 生涯にわたって、運動・スポーツをする機会を自分からつくり、『運動やスポーツがある生活』をしたいと思いませんか。

①強くそう思う ②思う ③思わない ④全くそう思わない



保健体育実技に対する意見・要望・感想など

体育実技Ⅰ（学部1年生および再履修）

<イム教文学部> *印、多数意見

- * 月曜の1限はやめてほしい。
- * 玉川校舎は遠い。
- * 本校で開講してほしい。
- * 体育は午後にしてほしい。
 - ・半強制的な種目決定はよくない。
- * 楽しく運動できた。
- * 人間形成の良い機会である。
 - ・本当にスポーツの好きな人だけで楽しくやりたい。
 - ・週2回くらいにする。
 - ・選択科目にしてほしい。
 - ・もっと厳しく合理的に。
 - ・出席の厳しさの差をなくす。
 - ・施設の充実。
 - ・ビデオ教材などを使った授業を。

<文学部> *印、多数意見

- * 充実感があり楽しかった。（楽しく参加できた）
- * 普段運動不足なので、体育は必要だと思う。（重要な時間）
- * 週2回くらいほしい。（運動不足解消、スポーツを楽しむために）
- * 3年次以降にも科目を設けてほしい。
- * 友人づくりの良い機会である。（友人もでき大満足である）
- * 高校時より気楽で楽しい、積極的にやろうという気になる。
- * 1週間で一番楽しみな授業だ。
 - ・運動する機会が少なくなったので良いと思う。
 - ・選択でも良いから存続してほしい。
 - ・一年間のみの必修にしてほしい。
 - ・希望種目がとれれば必修が良い。
- * 実技時間の延長。
 - ・自主的に参加したいと思う貴重な科目の一つ。
 - ・基本を教えてもらい有意義であった。
- * ゲーム中心の授業を。
- * もう少しハードに運動したい。
 - ・半強制的な種目決定をやめる。
- * 種目をふやし、好きで楽しめるものを選択できるように。
- * 普段体験できないスポーツをとり入れる。
- * 施設の充実。（体育館、テニスコート、ロッカー、更衣室など）
- * 玉川校舎はやめてほしい。（特に1限）
 - ・体育は気晴らし程度にしか考えていない。
 - ・種目によって内容の濃度が違い過ぎる。
 - ・出欠重視であり内容がない。
 - ・学外のスポーツ・クラブでの運動を単位にかえる。（社会人）

<経営学部> *印、多数意見

- * 種目の増加。（人気種目、新スポーツ）
- * 楽しくやれた。
 - ・時間数をふやしてほしい。
 - ・90分授業では物足りない。
 - ・3年次以降にも科目を設けてほしい。
 - ・運動能力の差はあるにしろ、連帯感を養う意味で必修にすべき。
 - ・週一度くらいは体を動かす時間が必要だ。
 - ・体育がなくなると運動するチャンスが無くなるので続けてほしい。
 - ・良い運動の機会だ。
- * 体験したことのないスポーツの面白みがわかった。
- * 本人の希望するものをやらせたほしい。
- * 施設の充実を計ってほしい。

<法学部> *印、多数意見

- * 楽しかった。（思ったより楽しかった）
- * 普段体験できないスポーツができて良かった。
- * 運動する機会として有意義だと思う。（必修にすべき）
 - ・体育実技を必修からはずす必要はない。
- * 3・4年次まで体育実技を（必修として、単位をふやして）
 - ・友人をつくる場として1年生には大切な時間。
 - ・自分にとって非常にプラスになった。
 - ・飽きることも無く1年間やれた。
- * 玉川校舎の1限はつらい。
- * 同一種目を通年で実施したい。
- * 希望種目がとれるように（種目の増加、選択法の工夫）
 - ・校舎が遠い。
 - ・施設の充実。（温水プールなど）
 - ・体育実技Ⅰに集中授業を実施してほしい。
 - ・体育実技は選択のほうが良いと思う。（選択化もやもう得ない）
 - ・選択にして、やる気のある学生だけで授業をしたほうが面白いと思う。
 - ・単位取得のために出席するのは苦痛だ。

<経営学部> *印、多数意見

- * 楽しかった。
- * 3年次以降も受講できる機会を作る。
 - ・週2・3度は体育実技があって良い。
 - ・このまま続けてほしい。
 - ・教え方が丁寧だったので良かった。
 - ・もっと厳しく、本格的にやる。
 - ・アンケートをとって、意見の反映してほしい。
- * 種目の増加。（面白い種目、球技）
 - ・プールがほしい。
 - ・体育実技をなくせ。

<再履修> *印、多数意見

- * 楽しかった。
- * 単位数をふやしてほしい。
- * 種目選択を希望通りにする。
- * 種目の増加。
 - ・強制的にするのではなく、選択制にして魅力あるスポーツ実習にしてほしい。
 - ・トーナメントなどイベント的なものを作ってほしい。
 - ・1限の必修はきつい。
 - ・通年は厳しい。
 - ・4年間もやってしまった。
 - ・教員の熱意不足。
 - ・つまらない種目が多い。
 - ・できれば選択科目にしてほしい。

体育実技Ⅱ（学部2年生以上） ※後期のみ

<本校授業> *印、多数意見

- *満足している。（楽しかった、非常に楽しい）
- *気分転換になるので、4年まで続けてほしい。
- *週2回の授業にしてほしい。（授業時間の増加）
- *他学部の学生と友人になれた。（友達が出来た）
- *体育は楽しい授業の一つである。
 - ・体育は重要である。
- *運動不足の解消になった。
- *ストレス解消になった。
- ・体育実技Ⅱを通年にしてほしい。
- *単位数をふやしてほしい。
- *多くの種目を実施したかった。
- *種目の増加。
- *このままで良いと思う。
 - ・午後からにしてほしい。
 - ・自主的にやらないと意味がない。
 - ・皆、もっと真剣にスポーツしてほしい。
 - ・必修から選択にする。（必修にしないで）
 - ・大学の授業の体育は週1回で十分。
 - ・高校の延長のような気がする。
 - ・もっと広いところでやりたい。
 - ・人数制限をやめて。

<集中授業> *印、多数意見

- *楽しかった。（すごく満足した）
- *大学生は運動不足がちなので、体育は積極的にやってほしい。
- *3年次以降も開講してほしい。
- *4年まで必修、卒業単位として大きな比重を持っている。
 - ・体を動かす素晴らしさがわかった。
- *大喧嘩、空手道をとって良かった。
 - ・集中となるとやる気にもなる。
 - ・友達が出来た。
- *指導良い。
- *今のままで良い。
- *泊りがけでやりたい。
- ・楽しく運動できる場をもっと与えてほしい。
- *日程、時間がきつい。
 - ・疲れた。
 - ・1日の時間をふやし、3日間くらいで。
 - ・種目や教師によって“楽しさ”が違い過ぎる。
- *小人数で多くの種目を選択できるように。
 - ・選択科目にしてほしい。
 - ・本校でやってほしい。
 - ・格技をふやしてほしい。
- *自分のやりたい種目を受講できるようにした方がやる気が出ると思う。

<シーズン・コース> *印、多数意見

- *とても楽しかった。
- *先生方の指導が大変丁寧でとても良かった。
- *復習するために、フリーの時間がほしい。
 - ・課題を達成する喜びを知った。
- *技術面だけでなく、友達もできるなど充実した授業であった。
- *実習費用をもう少し安くしてほしい。
 - ・他の教科に比べて、単位数が少な過ぎると思う。
 - ・3年次以降にも体育実技を開講してほしい。
 - ・3年次以降は、4単位として選択科目にいれてほしい。
 - ・体育実技Ⅱを通年にしてほしい。

- *1年次も全学部オープンで実施したら良いと思う。

- *個人では運動する機会が作りにくいので、体育実技はあったほうが良い。
 - ・運動不足がちなので、体育実技は短い時間とはいえ貴重である。
 - ・運動不足になりがちなので、体育実技は楽しく参加させてもらった。
- *運動が苦手な人でも楽しめる授業にしてほしい。（施設などを含めて）
 - ・もっと流行にマッチしたスポーツをやりたい。
 - ・社会に出てから役に立つものを取り入れてほしい。
 - ・希望種目を選択できるようにする。（開講種目を吟味して）
 - ・駒澤大学の体育実技は、数種の中から選択できるのでとても良いシステムだと思う。
 - ・今のままで満足している。

短期大学（国文科、英文科、放射線科）

<国文科> *印、多数意見

- *体育は必修で良かったと思う、これがないと運動しなくなる。
- *楽しかった。
- *友達が多くなった。（友達が出来た）
- *運動不足の解消ができた。
- *週2回やりたい。
 - ・2年次にも開講してほしい。
 - ・半期のみにすべき。
- *1時限目はやめてほしい。（3時限目が良い）
- *種目の増加。（屋外スポーツなど）
- *もっと多くの種目を実施したい。
 - ・もっと激しく運動したい。
 - ・短大にも集中・シーズンコースを開講してほしい。
 - ・運動能力で採点してほしくない。
- *ロッカーがほしい。

<英文科> *印、多数意見

- *とても楽しかった。
- *体育実技のあとは、すっきりして気持ちが良い。
- *週2回くらいやりたい。（実技の時間をふやして）
 - ・必修にして、2年生になってもとりたい。
 - ・体育の授業がこれなくなるのは悲しい。（短大のため）
- *エアロビクスを続けたいと思う。
 - ・多少きびしくても、もっと運動量をふやしてほしい。
 - ・自由に運動量を調節できるので良かった。
 - ・通年でほしい。
 - ・屋外種目もあったほうが良い。
 - ・シーズンコースに参加したい。
 - ・大学に体育実技があってビックリした。
- *ロッカーがほしい。
 - ・室内テニスコート、室内プールがあれば良い。

<方丈身寸観察科> *印、多数意見

- *楽しく体育実技ができた。
- *格闘技（空手道）がやりたかった。
- *水泳の授業をやってほしい。
- *体育は嫌いなので、授業でも楽しむことはできなかったが、他の人を見ていると楽しそうなので、うらやましく思う。